

令和5年度

上尾市教育委員会の事務に関する点検評価報告書

(令和4年度事業対象)

令和5年11月

上尾市教育委員会

目 次

1	はじめに	1
2	点検評価の対象	1
3	点検評価の方法	1
4	点検評価報告書の構成	1
	第3期上尾市教育振興基本計画（基本理念、基本方針及び目標）	2
	令和4年度 体系別評価対象事業一覧	5
目標Ⅰ 確かな学力の育成		
	施策1 創意工夫を生かした教育指導の実施	
	1 学級支援員派遣事業	7
	2 指導方法改善事業（創意工夫を生かした教育指導の実施）	8
	3 学校教育支援事業（創意工夫を生かした教育指導の実施）	9
	4 学力向上支援事業	10
	施策2 各学校種間の連携や小中一貫に向けた教育の推進	
	5 小中一貫教育推進事業	11
	施策3 ICT教育の推進	
	6 小・中学校コンピュータ整備事業	12
	7 指導方法改善事業（ICT教育の推進）	13
	第三者評価者からの意見・提言	14
目標Ⅱ 豊かな心の育成		
	施策1 豊かな心を育む教育の推進	
	8 教科用図書等整備事業	15
	9 音楽会等開催事業	16
	施策2 生徒指導の充実	
	10 いじめ対策等生徒指導推進事業	17
	11 さわやか相談室運営事業	18
	12 いじめ根絶対策事業（相談事業）	19
	13 不登校対策事業	20
	施策3 人権教育の推進	
	14 人権教育推進事業（人権教育の推進）	21
	第三者評価者からの意見・提言	22
目標Ⅲ 健やかな体の育成		
	施策1 児童生徒の体力向上	
	15 中学校部活動支援事業	23
	16 児童生徒体力向上推進事業	24
	施策2 学校保健の充実	
	17 学校健康診断及び健康管理事業	25
	18 学校環境衛生検査事業	26
	19 保健室管理運営事業	27
	施策3 食育の推進・学校給食の充実	
	20 調理場備品等整備事業	28
	21 小学校給食食器更新事業	29
	22 小学校給食室設備整備事業	30
	23 小学校給食管理運営事業	31
	24 小学校給食室衛生管理推進事業	32
	25 中学校給食調理業務委託事業	33
	26 中学校給食献立作成事業	34
	第三者評価者からの意見・提言	35

目標Ⅳ	自立する力の育成	
施策1	キャリア教育の充実	
27	中学生社会体験チャレンジ事業	36
	第三者評価者からの意見・提言	37
目標Ⅴ	多様なニーズに対応した教育の推進	
施策1	特別支援教育の推進	
28	特別支援学級補助員派遣事業	38
29	中学校特別支援学級設置事業	39
30	特別支援教育推進事業	40
31	小・中学校特別支援教育就学奨励事業	41
施策2	学校教育相談の充実	
32	教育相談事業	42
施策3	就学支援の充実	
33	小・中学校就学援助費補助事業	43
34	学校給食費支援事業	44
35	要保護児童生徒医療費援助事業	45
36	入学準備金・奨学金貸付事業	46
施策4	グローバル化に対応する教育の推進	
37	英語教育推進事業	47
38	日本語指導職員派遣事業	48
39	中学生海外派遣研修事業	49
	第三者評価者からの意見・提言	50
目標Ⅵ	質の高い学校教育のための環境の充実	
施策1	教職員の資質・能力の向上	
40	教職員健康管理事業	51
施策2	学校経営の改善・充実	
41	小・中学校業務改善支援事業	52
42	通学区域検討事業	53
43	コミュニティ・スクール推進事業	54
施策3	学校環境の整備・充実	
44	学校施設更新計画推進事業	55
45	小・中学校図書整備事業	56
46	小・中学校教育教材整備事業	57
施策4	学校安全の推進	
47	児童生徒安全推進事業	58
48	通学区見直し区域登下校サポート事業	59
49	学校安全パトロール事業	60
50	通学路安全対策事業	61
	第三者評価者からの意見・提言	62
目標Ⅶ	家庭・地域の教育力の向上	
施策1	学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進	
51	放課後子供教室運営事業	63
52	学校家庭連携推進事業	64
施策2	家庭教育の充実	
53	家庭教育推進事業	65
施策3	幼児教育の充実	
54	幼稚園・保育所と小学校の連携推進事業	66
	第三者評価者からの意見・提言	67

目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進

施策1 学び合い、共に支える社会の実現

55 公民館講座事業	68
56 人権教育集会所運営事業	69
57 人権教育推進事業(学び合い、共に支える社会の実現)	70

施策2 生涯学習の「場」と「推進体制」の整備

58 生涯学習指導者活動推進事業	71
59 学校施設開放(生涯学習)事業	72

施策3 未来へ向けた持続可能な生涯学習

60 大学等との連携による生涯学習推進事業	73
61 成人式事業	74

施策4 図書館運営の充実

62 図書館運営事業	75
63 図書館施設管理事業	76
64 図書館資料整備事業	77
65 子どもの読書活動支援センター運営事業	78
66 視聴覚ライブラリー事業	79
67 ブックスタート事業	80
68 セカンドブック事業	81

第三者評価者からの意見・提言	82
----------------	----

目標Ⅸ 文化芸術の振興

施策1 文化芸術の振興

69 美術展覧会事業	83
70 文化芸術振興事業	84
71 市民音楽祭事業	85

施策2 文化財の保護

72 「上尾の摘田・畑作用具」保存活用事業	86
73 文化財調査・保存事業	87
74 埋蔵文化財調査事業	88
75 文化財保護啓発事業	89
76 歴史資料調査事業	90

第三者評価者からの意見・提言	91
----------------	----

目標Ⅹ 健康で活気に満ちたスポーツ活動の推進

施策1 誰もがスポーツを楽しめる環境の充実

77 屋外スポーツ施設管理運営事業	92
78 市民体育館管理運営事業	93
79 学校施設開放(スポーツ振興)事業	94

施策2 誰もがスポーツを楽しめる機会の充実

80 スポーツ大会・教室等開催事業	95
81 スポーツ交流事業	96

施策3 地域におけるスポーツ活動の活性化の推進

82 スポーツ活動推進事業	97
---------------	----

第三者評価者からの意見・提言	98
----------------	----

教育委員会委員の活動状況	99
--------------	----

1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項には、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない」と規定され、また、同条第2項には、「教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする」と規定されております。

この報告書は、これらの規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくことを目的にして、令和4(2022)年度において上尾市教育委員会が実施した施策について推進状況をまとめたものです。

上尾市教育委員会では、令和3(2021)年3月に、教育基本法第17条第2項の規定に基づき、「第3期上尾市教育振興基本計画」を策定し、令和3(2021)年度から令和7(2025)年度までの5年間に於ける上尾市の教育の進むべき方向について「夢を育み 未来を創る 上尾の教育」を基本理念に、「生きる力を育む」「絆を育む」「学ぶ喜びを育む」の3つの基本方針を掲げ、施策の目標や方向性を示す10の目標を定めて事業を展開してきました。この事業について点検評価します。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大も収束に向かい始め、上尾シティハーフマラソン大会3年ぶりの実施、スポーツ健康都市宣言の初年度と変化が求められる年度となりました。これらの経験を活かし、「第3期上尾市教育振興基本計画」のもと更なる教育の振興に努めてまいります。

令和5年11月 上尾市教育委員会

上尾市教育委員会

教育長	西 倉 剛	教育長職務代理者	大 塚 崇 行
委員	内 田 みどり	委員	小 池 智 司
委員	谷 島 大	委員	矢 野 誠 二

2 点検評価の対象

令和5(2023)年度点検評価は、「第3期上尾市教育振興基本計画」に掲げた10の目標を達成するために令和4(2022)年度に実施した主要82事業を対象に行いました。

3 点検評価の方法

まず、目標・施策ごとに位置付けた主要な事業についてその実施状況を点検し、それを踏まえて自己評価を行いました。

次に、教育に関し学識経験を有する次の3人の方から目標ごとにご意見やご提言をいただきました。

聖学院大学人文学部日本文化学科特任教授 井上 兼生 氏
元県立さきたま史跡の博物館長 兼 嵐山史跡の博物館長 井上 肇 氏
元上尾市立学校長 小川 久雄 氏

4 点検評価報告書の構成

(1) 事業名、上尾市教育振興基本計画の体系、担当、事業の概要、事業費の推移、評価指標

令和4(2022)年度に実施した主な事業について、第3期計画における位置づけを明らかにし、主に担当した所属名や、評価年度である令和4(2022)年度及びその前年度の決算額やその翌年度の当初予算額を記載し、評価指標があるものについてはその指標を記載しました。

(2) 当該事業の評価

成果と課題をもとに今後の方向性を記載し、併せて第3期計画の目標・施策に対する自己評価を記載しました。

第3期上尾市教育振興基本計画

(基本理念、基本方針及び目標)

1 基本理念

本市では、平成 23(2011)年度から、第 1 期計画で掲げた「夢・感動教育 あげお」を基本理念として、教育の振興に取り組んできました。

この基本理念は、第1期計画において、おおむね 10 年先を見通した基本理念としたことから、令和 3(2021)年に策定した第 3 期計画では、第 1 期、第 2 期の理念を継承し新たな「夢を育み 未来を創る 上尾の教育」を基本理念に掲げ、教育の振興に取り組んでいます。

夢を育み 未来を創る 上尾の教育

夢を育み

急速に進展する社会において、将来に明るい希望を抱き、しっかりとした志を持って自己実現を目指すことのできる、知・徳・体の調和のとれた人間を育成する教育を実践します。

未来を創る

一人一人が社会の変化に主体的に向き合い、多種多様なつながりの中で、互いの価値観を認め、互いを尊重しながら、よりよい社会や豊かな人生を築き上げていくことのできる人間を育成する教育を実践します。

2 基本方針

基本理念「夢を育み 未来を創る 上尾の教育」の実現のため、本市の教育が目指す基本的な考え方として、次の 3 つの基本方針を定めます。

生きる力を育む

先の見えない変化の激しい時代を生き抜くため、自分の良さや可能性を認識するとともに、他者を価値ある存在として尊重し、知・徳・体の調和を図りつつ、公共の精神、感謝する心などを尊び、社会の一員として柔軟かつ的確に対応できる、自ら学び、考える、生きる力を育むことが重要です。

絆を育む

人口減少や少子高齢化の進展、国や地域を超えて世界的な結びつきが強くなっていく時代を生き抜くために、学校や家庭、地域、行政はもとより、企業や大学、関係団体など社会全体が連携・協働して一体となって取り組むことが必要です。郷土への愛着と誇りを大切に、より良い社会をつくっていくためには、一人一人が、教育に対する関心を高め、主体的に教育に参画し、市民の絆を育むことが重要です。

喜びを育む

学ぶことは、人々に楽しさや満足感、達成感などの喜びを与えてくれます。学ぶことによって得た喜びは、学び続けることへのきっかけとなり、人々の能力を向上させ、人生を豊かにします。また、一人一人が学んだことを社会に生かすことで、社会全体の発展につながります。全ての市民がいつでも、どこでも学ぶことができ、笑顔いっぱいの社会の実現を目指し、学ぶ喜びを育むことが重要です。

3 目標

本計画の基本理念および基本方針を踏まえて、今後 5 年間(令和 3(2021)年度～令和 7(2025)年度)をとおして実施する施策の目標や方向性などを示すものとして、10の目標を定めます。

I 確かな学力の育成

創意工夫を生かして子供たちの確かな学力を育成します。

II 豊かな心の育成

公共の精神、他者を思いやる気持ちや感謝する心など子供たちの豊かな心を育成します。いじめや不登校、非行・問題行動の防止などの課題に取り組みます。

III 健やかな体の育成

健康の保持・増進や体力向上などにより、健やかな体を育成します。

IV 自立する力の育成

社会や環境の変化に主体的に対応できる自立する力を育成します。

V 多様なニーズに対応した教育の推進

障害のある子供の学習環境の整備を計画的に進めるとともに、「多様な学びの場」の充実を図るなど、障害のある子供への支援・指導の充実を図ります。

VI 質の高い学校教育のための環境の充実

子供たちの教育環境を整備・充実するとともに、教職員の資質向上を図り、質の高い学校教育を推進します。

また、子供たちを災害・犯罪から守るための安全対策を講じます。

VII 家庭・地域の教育力の向上

社会全体で教育に取り組む気運を高め、コミュニティ・スクールや学校応援団など、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進します。

VIII 生涯にわたる学びの推進

市民一人一人が自己の人格を磨き、豊かな暮らしを送ることのできる生涯学習社会の実現のために、すべての市民がどのような状況下でも、個人の望む学びを継続できるよう、市民の生涯学習活動に対し、様々な角度から支援を行う体制を整備していきます。

IX 文化芸術の振興

多様な文化芸術活動を支援するとともに、貴重な文化財の保存・活用に取り組みます。

X 健康で活気に満ちたスポーツ活動の推進

生涯にわたり心身ともに健康で活気に満ちた生活を営むため、スポーツ・レクリエーションに親しむことができる機会と場の提供に取り組みます。

令和4年度 主要事業一覧

★…重点事業を表す。

目標Ⅰ 確かな学力の育成

施策1 創意工夫を生かした教育指導の実施		
★ 1	学級支援員派遣事業	学務課
★ 2	指導方法改善事業	指導課
3	学校教育支援事業	指導課
4	学力向上支援事業	指導課
施策2 各学校種間の連携や小中一貫に向けた教育の推進		
★ 5	小中一貫教育推進事業	指導課・教育総務課
施策3 ICT教育の推進		
★ 6	小・中学校コンピュータ整備事業	教育総務課
★ 7	指導方法改善事業	指導課

目標Ⅱ 豊かな心の育成

施策1 豊かな心を育む教育の推進		
8	教科用図書等整備事業	指導課
9	音楽会等開催事業	指導課
施策2 生徒指導の充実		
★ 10	いじめ対策等生徒指導推進事業	指導課
★ 11	さわやか相談室運営事業	教育センター
★ 12	いじめ根絶対策事業(相談事業)	教育センター
★ 13	不登校対策事業	教育センター
施策3 人権教育の推進		
★ 14	人権教育推進事業	指導課

目標Ⅲ 健やかな体の育成

施策1 児童生徒の体力向上		
15	中学校部活動支援事業	指導課
16	児童生徒体力向上推進事業	指導課
施策2 学校保健の充実		
★ 17	学校健康診断及び健康管理事業	学校保健課
18	学校環境衛生検査事業	学校保健課
19	保健室管理運営事業	学校保健課
施策3 食育の推進・学校給食の充実		
★ 20	調理場備品等整備事業	中学校給食共同調理場
21	小学校給食食器更新事業	学校保健課
22	小学校給食室設備整備事業	学校保健課
23	小学校給食管理運営事業	学校保健課
24	小学校給食室衛生管理推進事業	学校保健課
25	中学校給食調理業務委託事業	中学校給食共同調理場
26	中学校給食献立作成事業	中学校給食共同調理場

目標Ⅳ 自立する力の育成

施策1 キャリア教育の充実		
27	中学生社会体験チャレンジ事業	指導課

目標Ⅴ 多様なニーズに対応した教育の推進

施策1 特別支援教育の推進		
★ 28	特別支援学級補助員派遣事業	学務課
★ 29	中学校特別支援学級設置事業	学務課
★ 30	特別支援教育推進事業	指導課
31	小・中学校特別支援教育就学奨励事業	学務課
施策2 学校教育相談の充実		
★ 32	教育相談事業	教育センター
施策3 就学支援の充実		
★ 33	小・中学校就学援助費補助事業	学務課
★ 34	学校給食費支援事業	学校保健課
35	要保護児童生徒医療費援助事業	学校保健課
36	入学準備金・奨学金貸付事業	教育総務課
施策4 グローバル化に対応する教育の推進		
★ 37	英語教育推進事業	指導課
38	日本語指導職員派遣事業	学務課
39	中学生海外派遣研修事業	指導課

目標Ⅵ 質の高い学校教育のための環境の充実

施策1 教職員の資質・能力の向上		
40	教職員健康管理事業	学校保健課
施策2 学校経営の改善・充実		

令和4年度 主要事業一覧

★…重点事業を表す。

★ 41 小・中学校業務改善支援事業	学務課
42 通学区域検討事業	学務課
43 コミュニティ・スクール推進事業	指導課
施策3 学校環境の整備・充実	
★ 44 学校施設更新計画策定事業	教育総務課
★ 45 小・中学校図書整備事業	教育総務課
46 小・中学校教育教材整備事業	教育総務課
施策4 学校安全の推進	
★ 47 児童生徒安全推進事業	学校保健課
48 通学区見直し区域登下校サポート事業	学務課
49 学校安全パトロール事業	学校保健課
50 通学路安全対策事業	学校保健課
目標Ⅶ 家庭・地域の教育力の向上	
施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進	
51 放課後子供教室運営事業	生涯学習課
52 学校家庭連携推進事業	指導課
施策2 家庭教育の充実	
53 家庭教育推進事業	生涯学習課
施策3 幼児教育の充実	
★ 54 幼稚園・保育所と小学校の連携推進事業	指導課
目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	
施策1 学び合い、共に支える社会の実現	
★ 55 公民館講座事業	生涯学習課
★ 56 人権教育集会所運営事業	生涯学習課
57 人権教育推進事業	生涯学習課
施策2 生涯学習の「場」と「推進体制」の整備	
58 生涯学習指導者活動推進事業	生涯学習課
59 学校施設開放(生涯学習)事業	生涯学習課
施策3 未来へ向けた持続可能な生涯学習	
60 大学等との連携による生涯学習推進事業	生涯学習課
61 成人式事業	生涯学習課
施策4 図書館運営の充実	
★ 62 図書館運営事業	図書館
★ 63 図書館施設管理事業	図書館
★ 64 図書館資料整備事業	図書館
★ 65 子どもの読書活動支援センター運営事業	図書館
66 視聴覚ライブラリー事業	図書館
67 ブックスタート事業	図書館
68 セカンドブック事業	図書館
目標Ⅸ 文化芸術の振興	
施策1 文化芸術の振興	
★ 69 美術展覧会事業	生涯学習課
70 文化芸術振興事業	生涯学習課
71 市民音楽祭事業	生涯学習課
施策2 文化財の保護	
★ 72 「上尾の摘田・畑作用具」保存活用事業	生涯学習課
73 文化財調査・保存事業	生涯学習課
74 埋蔵文化財調査事業	生涯学習課
75 文化財保護啓発事業	生涯学習課
76 歴史資料調査事業	生涯学習課
目標Ⅹ 健康で活力に満ちたスポーツ活動の推進	
施策1 誰もがスポーツを楽しめる環境の充実	
★ 77 屋外スポーツ施設管理運営事業	スポーツ振興課
★ 78 市民体育館管理運営事業	スポーツ振興課
★ 79 学校施設開放(スポーツ振興)事業	スポーツ振興課
施策2 誰もがスポーツを楽しめる機会の充実	
★ 80 スポーツ大会・教室等開催事業	スポーツ振興課
81 スポーツ交流事業	スポーツ振興課
施策3 地域におけるスポーツ活動の活性化の推進	
★ 82 スポーツ活動推進事業	スポーツ振興課

事業名	学級支援員派遣事業	1
-----	-----------	---

★重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標 I 確かな学力の育成	担当	学務課
施策	施策1 創意工夫を生かした教育指導の実施		

●事業の概要

主な目的・内容	通常学級に在籍する支援を要する児童・生徒への生活支援および自立支援を行い、学校・学級の円滑な運営、安全確保を図るため、学級支援員「アップスマイルサポーター」を配置しています。
主な対象(数)	市立小・中学校で必要とされるアップスマイルサポーターの配置人数等

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額 (千円未満切捨)	115,614 千円	119,450 千円	137,996 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
アップスマイルサポーターの配置人数	90人	91人	90人	

●当該事業の評価

成果	通常学級に在籍する、支援を必要とする児童生徒への生活支援および自立支援を行うことで、学校・学級の円滑な運営、安全確保につながっています。
課題	支援を必要とする児童等の多様化や、障害のある児童生徒が通常学級を希望するケースが増加傾向となっています。そのため、児童生徒の特性に応じた、きめ細やかな支援体制を一層充実させる必要があります。
今後の方向性	各小・中学校の配置要望と児童生徒の状況を勘案し、継続的にアップスマイルサポーターの適切な配置に努めてまいります。
目標・施策に対する評価	アップスマイルサポーターが業間休み等も積極的に児童生徒に関わることで、児童生徒の様子を担任教諭等と共有することができました。また、支援を積極的に行うことで、担当した児童生徒にも大きな成長が見られました。

事業名	指導方法改善事業（創意工夫を生かした教育指導の実施）	2
-----	----------------------------	---

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅰ 確かな学力の育成	担当	指導課
施策	施策1 創意工夫を生かした教育指導の実施		

●事業の概要

主な目的・内容	適正な教育課程を編成・実施し、教育活動の充実や教員の指導力の向上及び授業の充実を図るために必要な図書・資料の作成・配布、研修会の開催等を行います。具体的には、上尾市立小・中学校教育指導計画基本方針の印刷製本及び上尾市立小・中学校の教員への配布、研修会の開催、教師用指導書・教師用デジタル教科書の整備などを行います。
主な対象(数)	・上尾市立小・中学校に在籍する全児童生徒及び教員並びに管理職 ・各種研修会等参加者

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額（千円未満切捨）	44,500 千円	4,770 千円	5,337 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
上尾市立小・中学校教育指導計画基本方針の配布	1000冊配布	1000冊配布	1000冊配布	
上尾市教育課程研究協議会の実施	年4回実施	年4回実施	年4回実施	
教師用指導書・教師用デジタル教科書の整備	・中学校教師用指導書全校分整備 ・中学校デジタル教科書(国・社・地 図帳・教・外)の整備	小学校学級数増加分の指導書の整備	小学校学級数増加分の指導書の整備	

●当該事業の評価

成果	・上尾市における教育の基本的な考え方や指導の重点・努力点が掲載されている、上尾市立小・中学校教育指導計画基本方針を上尾市教育委員会事務局及び各上尾市立小・中学校在籍の教職員全員に配布しました。 ・令和4年度は、教科書の改定がなかったため、小学校の学級数増加分及び少人数指導等で必要となった指導書の整備を実施しました。
課題	・適正な教育課程を編成・実施するために、上尾市教育課程研究協議会の内容を工夫する必要があります。具体的には、令和8年度から実施する小中一貫教育についての取組内容を検討することが課題です。
方今後の向性の	・今後も継続して、適正な教育課程を編成・実施し、教育活動の充実や教員の指導力の向上及び授業の充実を図るために必要な図書・資料の作成・配布、研修会の開催等を行います。
目標・施策に対する評価に	・教師用指導書及びデジタル教科書及び小学校学級数増加分の指導書の整備をそれぞれ実施することができたため、従来の指導に加えて、ICT機器を活用するなどした創意工夫を生かした教育指導を実施することができました。

事業名	学校教育支援事業	3
-----	----------	---

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標 I 確かな学力の育成	担当	指導課
施策	施策 1 創意工夫を生かした教育指導の実施		

●事業の概要

主な目的・内容	各小・中学校が教育課題を定め、学校課題研究の推進を支援することとおして、上尾市の教員の資質及び指導力の向上を図るとともに、学校教育の質の向上によって児童生徒の学力向上を図り、児童生徒・保護者・地域から信頼される学校を築きます。
主な対象(数)	全上尾市立小・中学校(東中学校向原分校を含む。)

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	2,840 千円	3,194 千円	3,209 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
市委嘱研究発表校	11	11	11	市内の3分の1の学校が研究発表を実施する。

●当該事業の評価

成果	各学校の実情に応じ、参集型やオンライン型、またその両方を取り入れたハイブリッド型での開催を行い、工夫ある発表を行うことができ、市内に効果的な実践事例を広めることができました。 また、研究成果物を電子化したり、学校間共有フォルダを活用するなど、これまでと異なる形式で、研究成果の共有を図ることができました。
課題	多様化する教育課題に対し、市としてバランスよく研究に取り組む必要があります。
方向性の	今後の研究委嘱校による研究内容について、関係校等との調整会議を行うなど、多様化する教育課題に対する研究が行えるようにします。またそのための支援を教育委員会で実施します。
目標・施策に対する評価に	第3期上尾市教育振興基本計画「第2章 施策の展開 目標 I 確かな学力の育成 施策1創意工夫を生かした教育指導の実施」における課題①②③に対する着実な取組を行っております。

事業名	学力向上支援事業	4
-----	----------	---

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅰ 確かな学力の育成	担当	指導課
施策	施策1 創意工夫を生かした教育指導の実施		

●事業の概要

主な目的・内容	学力調査結果の分析を多面的に行い、学力向上策を立案して、学習指導に取り組むことにより、児童生徒一人一人の学力を向上させます。 各市立小・中学校の児童・生徒一人一人に「確かな学力」を育成するため、基礎的な学力定着の実態を把握し、学校の教育課程の編成や学習指導方法の工夫・改善に役立てます。
主な対象(数)	・市立小学校 第2学年・第3学年・第4学年・第5学年・第6学年 全児童 ・市立中学校 第1学年・第2学年 全生徒

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額 (千円未満切捨)	7,908 千円	9,069 千円	11,100 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
市内標準得点(小学校)	51.2	48.3	50.0	
市内標準得点(中学校)	51.0	51.5	52.0	

●当該事業の評価

成果	令和4年度は、小学校では5年生の国語のみ、中学校では1,2年生ともに国語、数学、英語において、市全体の平均正答率が全国の平均正答率を上回りました。学力調査の結果分析を通して、個人の学力の定着に差があることや、小学校においては、当該学年の学力の定着が不十分であることが明らかになりました。
課題	令和4年度は、小学校5年生の国語以外、全国の平均正答率を下回りました。また、中学校においては、第2学年の数学と英語において全国の平均正答率を下回っています。誤答分析の結果、全体的に無回答率が高いことから、粘り強く学習に取り組む態度の育成が課題として挙げられます。
方今 向後の 性の	児童生徒一人一人の学力の課題を的確に把握できる学力調査をもとに、個々の課題に応じた問題を活用して学力の向上を図っていきます。 学力向上プランの内容をより実効性のあるものに改定し、教科横断的な視点も含めて日々の授業改善や個別最適な学びへとつなげていきます。
目標・ 施策に 対する 評価	年2回の学力向上プランの見直しを通して、児童生徒の状況を的確に把握し、課題に対して早期に改善策を講じることができました。 学力調査から明らかになった各教科の課題について重点化を図り、教科横断的な視点で具体的な手立てを考え、授業改善を図ることができました。

事業名	小中一貫教育推進事業	5
-----	------------	---

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅰ 確かな学力の育成	担当	指導課・教育総務課
施策	施策2 各学校種間の連携や小中一貫に向けた教育の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	小学校、中学校生活に適應できない「小1プロブレム」やいわゆる「中1ギャップ」と呼ばれる進学に伴う新たな環境への不適應などの課題等への対応のため、令和5年3月に策定した「上尾市小中一貫教育基本方針」に基づく、小学校・中学校9年間にわたる児童生徒の学びと育ちの連続性を重視した教育を展開するため、校種を超えた教職員・児童生徒の交流を図り、小学校・中学校の9か年を見据えた教育課程を編成するなど、小中一貫教育の推進に取り組みます。
主な対象(数)	全上尾市立小・中学校(東中学校向原分校を含む。)

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	0千円	0千円	0千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
小中連携の取組を実施する中学校区	全中学校区	全中学校区	全中学校区	全中学校区において、小中一貫教育に向けた小中連携の取組を実施する。

●当該事業の評価

成果	<p>中学校教員による小学校への「出前授業」の実施や、小学校卒業前の部活動見学等を通して、児童は入学予定の学校を知ることができ、児童の進学に対する安心感を生み出すことにつながっています。また、同じ中学校区の小・中学校教員が合同で行う研修会等が積極的に実施されており、9年間を通した系統的な教育活動を目指した指導方法の工夫・改善へとつながっています。</p> <p>また、令和5年3月には、「上尾市小中一貫教育基本方針」を策定し、令和8年度から、市内全小・中学校において、小中一貫教育を開始することとしました。</p>
課題	市内全小・中学校における令和8年度からの小中一貫教育の開始を見据え、小中一貫教育推進スケジュールに基づき、各中学校区における着実な準備を行う必要があります。
方今向後性の	「上尾市小中一貫教育基本方針」の理念を広く周知するとともに、推進スケジュールに基づき、中学校区ごとに、目指す児童生徒像や目標等を定めていきます。教育委員会では、教育課程研究協議会等と連携し、小中一貫教育に推進に係る研修を実施します。
目標・施策に対する評価に	第3期上尾市教育振興基本計画「第2章 施策の展開 目標Ⅰ 確かな学力の育成 施策2 各学校種間の連携や小中一貫に向けた教育の推進」における課題①②③に対する着実な取組を行っております。

事業名	小・中学校コンピュータ整備事業	6
-----	-----------------	---

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標 I 確かな学力の育成	担当	教育総務課
施策	施策3 ICT教育の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	令和元年に文部科学省から発表された「GIGAスクール構想」の実現に向け、ICT端末や情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えます。
主な対象(数)	全市立小・中学校(分校を含む。)

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額 (千円未満切捨)	489,046 千円	474,516 千円	659,236 千円

●当該事業の評価

成果	学校ネットワーク基盤システムの更改及び統合型校務支援システムの導入を行い、校務用ネットワークのセキュリティ強化や、働き方改革を図りました。
課題	ICT端末については、児童生徒が同じ環境で授業を受けられるよう、Chromebookを充足させる必要があります。 また、情報通信ネットワーク環境につきましても、大規模校においては未だ十分とは言えない通信速度であるため、改善に向け検討を続けていく必要があります。
方今 向後 性の	令和5年度の中学校、令和6年度の小学校のWindowsタブレットの更改に合わせ、全児童・生徒にChromebookが行き渡るよう整備を行います。 情報通信ネットワーク環境については、引き続き改善に向けて検討を行います。
目標・ 施策に 対する 評価	学校ネットワーク基盤システムのサーバ類を市役所第三別館から民間のデータセンターに移行することによるセキュリティ強化及び、統合型校務支援システム導入による、教員の校務に対する負担軽減を図りました。

事業名	指導方法改善事業（ICT教育の推進）	7
-----	--------------------	---

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標 I 確かな学力の育成	担当	指導課
施策	施策3 ICT教育の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	<p>本市では、「GIGAスクール構想」により、令和3年2月の児童生徒用のICT端末の配備、令和3年8月の教師用のICT端末が配備されました。各学校では、配備された機器、環境を生かし、全ての学習の基盤となる「情報活用能力」の育成に、積極的に取り組んでおります。</p> <p>しかしながら、校内にICT機器が増えることで、操作の習得やICTを活用した授業改善、機器の設置準備等、新たな業務の発生につながっている現状がございます。</p> <p>この事業は、上記の状況等を解消するため、学校ICTの専門家であるICT支援員を配置することで、ICT端末等の効果的な活用と教員の負担軽減等を図るための事業となります。</p>
主な対象(数)	全上尾市立小・中学校(東中学校向原分校を含む)

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	5,180 千円	31,776 千円	39,600 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
学校ICT支援員の人数	1人	8人	8人	各学校に派遣する学校ICT支援員の人数
学校ICT支援員の派遣の回数	1校につき 4回	1校につき 49回	1校につき 48回	各学校に学校ICT支援員を派遣する回数

●当該事業の評価

成果	学校ICT支援員を増員し、各学校に週1回程度の学校派遣を実現(8人程度/4校に1人配置)したことで、各校における課題や解決策を支援員同士が共有し、学校に対し、有益な情報提供をスピーディに行うことができるようになりました。また、教育委員会と業務管理者の連携を軸に、市全体における「あげお学びのイノベーション」の推進を着実に行うことにつながりました。
課題	学校ICT支援員への要望は、常に増え続けています。また、機器管理や新たな校務支援システム導入等に伴う支援など、これまで以上に、ICT支援員によるサポートを各校が必要としている状態です。
方今向後性の	各校に対する、週1回程度の学校派遣における支援をさらに充実させるため、ICT支援員同士の交流をさらに活発化させるとともに、「上尾市教職員専用ICTサポートサイト」等を活用しながら、各校への支援を続けていきます。
目標・施策に対する評価に	第3期上尾市教育振興基本計画「第2章 施策の展開 目標 I 確かな学力の育成 施策3 ICT教育の推進」における課題①②③④に対する着実な支援につながっております。

第三者評価者からの意見・提言

目標Ⅰ 確かな学力の育成

〔施策1〕 〔施策2〕 〔施策3〕 2020年度から小学校、2021年度から中学校で全面実施されている現学習指導要領は、AIなどの進化により社会が劇的に変化する「第4次産業革命」を強く意識して策定され、明治維新以来の教育大改革ともいわれる。この学習指導要領に対応する2020年代の学校教育が目指すべき姿として2021年に中教審答申が示した「令和の日本型学校教育」では、多様な子供たちすべての可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進を打ち出した。ICTを使った個別学習では学習履歴（スタディ・ログ）の活用が重要となる。また、履修主義と修得主義を適切に組み合わせること、小・中学校9年間を見通した指導体制なども求められる。アップスマイルサポーターの継続的配置、デジタル教科書の整備などを評価するとともに、Chromebookの充足、ネットワーク環境の改善、ICT支援員の増員、教職員に負担増を求めないかたちでの研修機会の十分な確保などの取組の推進を期待したい。

●重点施策 事業1【学級支援員派遣事業】は、評価指標の「アップスマイルサポーターの配置人数」令和2年度実績120に対し、令和3年度以降90、91人に減少しており、令和5年度目標は前年度より低い数値設定となっているため、支援体制を一層充実させるという目標を達成するには、質の向上が求められる。また、目標に対する自己評価に小学校数の増加分対応を挙げているが、評価指標は令和2年から変化なし、連動した説明もない。●事業4【学力向上支援事業】の評価指標の設定について、「第3期上尾市教育振興基本計画」に設定されている目標との整合性を分かりやすくすることが、成果・評価を生かし、今後の方向性につなげるという点では必要となる。●重点施策 事業6【小・中学校コンピュータ整備事業】は、評価指標が設定されていないため、事業の具体性を示す点においては、定量的な評価指標を設定し、評価することが重要である。●重点事業【事業名1・2】は、当該事業の評価全体が、前年度の記載とほぼ同じ。【事業名3・4・5・7】の目標施策に対する評価（自己評価）は、前年度と全く同じで、具体性がなく抽象的文言に終始している。PDCAサイクルによる事業評価手法について、基本的な学習が望まれる。

学級支援員派遣事業は、評価できる。継続し柔軟な対応したい、複数クラスの対応も必要。上尾市立小中学校教育基本方針を小・中教員への配布、教師指導書、デジタル教科書等の研修会開催は良い。全校の財産、指導力向上させるには校内体制、学校経営充実が不可欠でありP-D-SサイクルのD-Sの確認、吟味が求められる。学校研究課題を設定し、研究の共有、個別指導の工夫、切磋琢磨することに価値がある。基本には学級経営があり個々の児童理解が極めて重要である。課題部分は、教師のチームワークで補いたい。学力調査結果に小・中学校に課題があり、改善策を講じたのは良い。教科横断的な理解と反復定着が大切である。更に小中カリキュラム一貫性や小中教員の相互協力を深めたい。小学校の基礎基本内容の定着についても相互理解を深めたい。小中学校のタブレット、パソコンの活用は進んでいる。映像知識は理解しやすいが、定着に弱い面もあると言われる。従来の反復学習も大切であり両方の利点を理解し有効に活用したい。

事業名	教科用図書等整備事業	8
-----	------------	---

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅱ 豊かな心の育成	担当	指導課
施策	施策1 豊かな心を育む教育の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	体育科・社会科の授業において、準教科書及び副読本の効果的な活用による授業内容の一層の充実を図り、児童・生徒の基礎基本の定着、豊かな心の醸成を図るため、小・中学校の体育科、保健体育科の準教科書、社会科の副読本の無償給与と市独自の「社会科副読本」の作成・配布を行います。
主な対象(数)	市立小・中学校全児童・生徒

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	7,062 千円	7,021 千円	7,701 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
体育科準教科書整備率	100%	100%	100%	3年生以上が使用
保健体育科準教科書整備率	100%	100%	100%	
社会科副読本整備率	100%	100%	100%	

●当該事業の評価

成果	教科用図書が発行されていない体育科において、準教科書を無償配布することで、体育科の授業を充実させることができました。小学校第3学年には、社会科副読本「のびゆく上尾」、小学校第4学年には、「郷土さいたま」、中学校第1学年には「われらの郷土さいたま」を配付し、貴重な資料とともに郷土に関する学習を進めることができました。
課題	社会科副読本を資料として効果的に活用し、郷土についてより深く学び、地域の特色や伝統、文化に対する理解を深めていくことが課題です。
方今 向後 性の	今後も、準教科書や副読本を活用し、児童生徒の基礎基本の定着や、豊かな心の醸成を図っていきます。社会科の副読本については、より効果的で充実した内容となるように、副読本作成委員会において見直していきます。
目 標 ・ 施 策 に 対 する 評 価	体育科の準教科書については、体の動きを視覚的にとらえられる資料として有効であり、各学校で技能を高める授業展開ができました。社会科の副読本については、児童生徒が住んでいる地域について、より具体的に郷土学習を行うことができました。「のびゆく上尾」はデジタル教材も配布し、より充実した内容となっています。

事業名	音楽会等開催事業	9
-----	----------	---

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅱ 豊かな心の育成	担当	指導課
施策	施策1 豊かな心を育む教育の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	市立小・中学校の児童・生徒の音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育て、情操豊かな児童・生徒の育成を図るとともに、教員の研修の機会とするため、毎年度1回「上尾市中学校吹奏楽演奏会」「上尾市小・中学校音楽会」を実施しています。
主な対象(数)	市立小・中学校児童・生徒

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	110 千円	1,778 千円	2,146 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
上尾市中学校吹奏楽演奏会	-	市内中学校1校参加	市内中学校10校参加	・令和5年度は吹奏楽部のある中学校が10校に減少 ・令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
上尾市小・中学校音楽会	-	市内小・中学校33校参加	市内小・中学校33校参加	・令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

●当該事業の評価

成果	新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら、3年ぶりに吹奏楽演奏会、小・中音楽会を開催することができました。吹奏楽演奏会については、新型コロナウイルス感染症の影響で、1校が欠場となりましたが、小・中音楽会については、市内全小・中学校の代表クラスが参加し、日頃の音楽における教育活動の成果を発表することができました。
課題	各校の音楽における教育活動を充実させ、自ら生活や社会の中の音や音楽との関わり、生活を豊かにしようとする児童生徒を育成していくことが課題です。
方向性の	吹奏楽演奏会、小・中音楽会ともに、文化センターを会場として演奏を発表することは、市内児童生徒の音楽性育成のためにも有意義であると考え、引き続き実施していきます。
目標・施策に 対する評価	日頃の音楽における教育活動の成果を発表することの意義は大きく、児童生徒の学習意欲を高め、音楽科としての学力向上につながっています。また、学校間で互いの音楽を鑑賞することは、教員の指導力向上にもつながっています。

事業名	いじめ対策等生徒指導推進事業	10
-----	----------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅱ 豊かな心の育成	担当	指導課
施策	施策2 生徒指導の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	<p>児童・生徒の個々の状況を的確に把握し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を図ります。問題行動等の原因や背景は様々ですが、最近ではネットやスマホ・携帯電話を介した「いじめ」が増加し、学校における「いじめ発見」が難しい事例もあります。</p> <p>児童・生徒の個々の学校生活における承認感や満足度等の状況を的確に把握するための心理検査や、ネットパトロール調査、いじめを考える授業等を実施し、よりよい学級集団の形成に資するとともに、教員の資質向上、保護者との連携などを通して、いじめ根絶の取組を市全体で推進します。</p>
主な対象(数)	市立小・中学校の全児童・生徒

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額 (千円未満切捨)	5,435 千円	5,836 千円	6,282 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
ネットパトロール調査の回数	6	6	6	
いじめを考える授業の実施回数	1	1	1	

●当該事業の評価

成果	<p>ネットパトロール調査では、学校非公式サイト、個人SNS合わせて約400のサイトを監視対象とし、いじめの未然防止につながる情報を中学校と共有することができました。</p> <p>CAP研修会では、いじめを見抜く能力や組織的に対応することの大切さについて、経験の少ない若手教員が学ぶ機会となりました。</p> <p>心理検査では、担任等が個々の児童・生徒の状況を把握し、個に応じた生徒指導を実践することができました。これらにより、いじめを認知する機会が増え、より細やかな見守り・支援・指導が実施できました。</p>
課題	現在実施しているネットパトロールにおいて、取り扱っているSNSや掲示板サイトの監視から表出しない問題への対応が課題です。
方今向後性の	各学校におけるいじめ体制を整え、いじめの見逃しゼロや適切な初期対応を図ることができるように調整していきます。また、情報モラル教育の更なる充実を図ります。
対する評価に	ネット上でのいじめも含め、様々ないじめ問題に対する対策に取り組み成果を上げることができました。

事業名	さわやか相談室運営事業	11
-----	-------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅱ 豊かな心の育成	担当	教育センター
施策	施策2 生徒指導の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	いじめや不登校などの未然防止とその解消を目的として、いつでも気軽に児童生徒や保護者の相談に応じ、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるようにします。
主な対象(数)	小学校22校、中学校11校

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	147 千円	154 千円	167 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
相談員が扱った相談の延べ回数	15,547回	16,784回		11名の相談員の年間のべ相談件数の合計
相談の解決率	71%	76%		解決件数/相談件数×100
不登校生徒数割合	4.53%	5.45%		不登校生徒数/全生徒数×100

●当該事業の評価

成果	各中学校にさわやか相談室相談員を配置することで、令和4年度は16,784回の相談に対応し、多くの児童生徒、保護者の気持ちに寄り添った相談や悩みの解決に向けた支援に取り組むことができました。 各小学校にも、学区の中学校に配置されている相談員が月1回程度出向き、相談室を開設することで、気軽に関われる機会を設けています。
課題	相談内容が、複雑化している現状から、校内での情報共有と支援の充実を図るとともに、関係機関との連携が必要なケースも増えています。このことから、適切な関係機関への接続とその後の見届けのあり方について、今後も検討していくことが課題です。
方向性の今後の	長期欠席児童生徒数の増加に伴い、さわやか相談室を利用する児童生徒も増加傾向にあるため、研修会や講演会を通じてよりよい支援について共有することで相談室運営が工夫されるようにします。教職員との連携、学習の支援等とも関連付けながら本事業を継続していくものとします。
目標・施策に対する評価	小・中学生、保護者にとって、地域にある相談窓口として、身近な存在になっているケースがあります。このことから、悩みを一人で抱えないですみ、安心して学校生活を送れる体制づくりに役立っているといえます。

事業名	いじめ根絶対策事業(相談事業)	12
-----	-----------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅱ 豊かな心の育成	担当	教育センター
施策	施策2 生徒指導の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	「いじめホットライン」を設置し、いじめられている児童生徒、保護者のためのいじめ専用相談電話窓口とすることで、児童生徒の問題行動解決を図ります。
主な対象(数)	市内在住の小・中学生、その保護者

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	135 千円	133 千円	142 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
いじめホットライン・ホットメール相談件数	3件	4件		いじめ専用電話・専用メール相談の年間件数
いじめ相談解決率	100%	100%	100%	解決数/いじめ件数

●当該事業の評価

成果	昨年度、4件のいじめホットラインが相談として入り、それぞれのいじめ相談に対して早急に対応し、いじめの解決を図ることができました。
課題	いじめホットメール、ホットラインの中には、匿名のものもあり、相談者の特定ができないケースもあります。そのような場合、解決できたかを見届けられないこともあります。
方今後性の	月曜日から金曜日(祝祭日を除く)9時00分から17時00分は即時対応、それ以外には留守番電話で対応することで、24時間電話受付を行っている上尾市のいじめに関する専用ダイヤルは、本回線だけであり、いじめ専用ダイヤルで相談したいというニーズはあるため、本事業を継続していくものとします。
目標・施策に対する評価	昨年度、入ったケースについては全ケースにおいて解消することができ、児童生徒が抱える問題の解決が図れました。

事業名	不登校対策事業	13
-----	---------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅱ 豊かな心の育成	担当	教育センター
施策	施策2 生徒指導の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	長期欠席状態の児童生徒に対して、よりよい成長と自立を促し、学校復帰及び社会的自立を目指した指導支援を行う教育相談対応、学校適応指導教室運営を行います。
主な対象(数)	市内在住の小・中学生

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	684 千円	882 千円	1,058 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
学校適応指導教室利用数	42人	42人		教室を利用した児童生徒数
学校への復帰率	86%	84%	100%	学校復帰した人数/学校適応指導教室利用人数×100

●当該事業の評価

成果	教育センターでは、相談者のニーズに応じて、来所、訪問、電話、オンラインなどの形態で小学生79人、中学生85人の不登校児童生徒に相談対応してきました。また、そのうち学校適応指導教室を利用した小学校12人、中学校30人のうち、35人が学校に行けるようになりました。
課題	不登校児童生徒を取り巻く状況が複雑であるため、学校復帰だけでなく、社会的自立につなげるために学校以外の関係機関への接続が必要です。また、関わりを広げることが難しいケースに対して個別最適な支援をしていくことが課題です。
方今後性の	教育相談対応、学校適応指導教室については様々な体験や人との関わる機会を継続して設けるとともに、学校、保護者と連絡を密にすることで学校復帰及び社会的自立を目指した指導支援を継続していくものとします。また、不登校対策推進委員会で協議しながら、総合的、効果的な不登校対策を推進していきます。
目標・施策に対する評価	学校適応指導教室を利用していた児童生徒が、活動の中で成長し人と関わる自信や挑戦するエネルギーをもてるようになりました。84%が学校復帰できたことは、社会的な自立のためにも大きな成果であるといえます。

事業名	人権教育推進事業（指導課）	14
-----	---------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅱ 豊かな心の育成	担当	指導課
施策	施策3 人権教育の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	人権を尊重する教育と心豊かな人づくりの推進を図り、人権尊重の意識を高めることで、いじめや差別をなくす学校の実現と相手の立場に立って考える思いやりのある児童生徒の育成を図ります。そのために、人権教育研修会（人権教育現地研修会を含む）を実施し、校長、教頭、教員の資質向上を図ります。
主な対象(数)	全市立小・中学校(分校を含む。)

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額（千円未満切捨）	1,023 千円	1,166 千円	1,271 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
上尾市人権教育管理職研修会	年1回	年1回	年1回	市立小・中学校の管理職を対象
上尾市人権教育現地研修会	年1回	年1回	年1回	市立小・中学校の教諭を対象
上尾市人権教育小中学校研究会研修	年1回	年1回	年1回	市立小・中学校の人権教育主任を対象

●当該事業の評価

成果	人権教育小中学校研究会全体会・各部会（啓発・調査研究・資料作成）、人権教育管理職研修会（講義「インターネットによる人権侵害について」）、人権教育現地研修会（岩殿山正法寺）、人権教育授業研究会等を実施しました。学校では、人権感覚育成プログラムを人権教育の全体計画・年間指導計画に位置づけ、校内研修や日々の授業で取り組むことができました。
課題	充実した研修を行い、管理職及び教員としての資質能力を高め、豊かな人権感覚を身に付けた児童生徒を育成することは今後も学校教育が担う重要な課題です。人権課題は、時代の変化によって新たに様々な課題が生まれてきます。様々な人権課題の中から重点項目を設定し、充実した研修会を計画していくことが課題です。
方向性の今後の	令和5年度は、同和問題、インターネットによる人権侵害、性の多様性に関する人権課題について重点的に取り組んでいきます。また、ヤングケアラーへの支援など、新しい人権課題に対する取組や、人権教育に関する好事例の共有を通して、人権教育に関する教職員の資質向上を図っていきます。
目標・施策に対する評価	人権教育小中学校研究会全体会・各部会、人権教育管理職研修会、人権教育現地研修会、人権教育授業研究会等の実施を通して、校長、教頭、教員の資質向上を図ることができました。また、学校での人権教育の全体計画・年間計画への人権感覚育成プログラムの位置づけや、校内研修・日々の授業での実践によって、上尾市内の教職員、児童・生徒の人権感覚を育成することができました。

第三者評価者からの意見・提言

目標Ⅱ 豊かな心の育成

〔施策1〕 3年ぶりに吹奏楽演奏会、小・中音楽会を、文化センターを会場として開催できたことは喜ばしい。

〔施策2〕 〔施策3〕 近年深刻になっているネット上でのいじめも含め、いじめ問題に対するさまざまな対策については、基本法である「いじめ防止対策推進法」の内容が教育委員会や学校の教員まで浸透していないことが大きな課題として指摘されている。上尾市HPの「いじめの防止の取組に向けて」に示された基本方針、ガイドライン、市内におけるいじめ事案の検証も踏まえた対応マニュアルなどの周知徹底、遵守を基本としつつ、多角的な取組の進展を期待したい。スクールロイヤー制度の導入なども検討をお願いしたい。いじめ、不登校などさまざまな問題を教員だけで抱えこむのではなく、スクールソーシャルワーカーなどの専門家や、児童相談所などの関係機関などと緊密に連携して対応する「チームとしての学校」の教育相談体制を構築・推進することが近年重視されるようになった。こうした「チーム学校」としての取組の一層の推進を望みたい。

●事業8【教科用図書等整備事業】の当該評価の記載は、前年度とすべて同じ。課題と今後の方向の関係は、先送り構造であり、見直しの実態のない評価。●重点事業 事業10【いじめ対策等生徒指導推進事業】も当該事業の評価は、自己評価では、「様々ないじめ問題に対する対策に取り組みに成果を上げることができました。」とある。令和4年度の「上尾市いじめ問題調査委員会」を設置したことで、どのような成果が得られたのかを具体的に市民に説明することが教育委員会としての最低限の責務か。PDCAサイクルの実施徹底により内省力のポテンシャル強化を行うことが、求められている。●重点事業 事業14【人権教育推進事業】の評価指標について、より定量的でアウトカムを反映したものに設定し、少なくとも対象者の100%参加達成を目指すべき事業であろう。

社会科副読本は有効、上尾市や県の歴史等補完する内容がある。体育科の準教科書には、心身の発達や健康、運動の基礎があり活用度や効果の調査をしたい。市内小中音楽会や吹奏楽演奏会は素晴らしい。音楽文化の充実へ波及効果ある。今日の青少年の問題、課題を見るとネットパトロール調査は必須であり徹底したい。CAP研修は教員にも必要である。いじめがあっても認知できないこともある。教育センター、子ども電話相談や人権相談等複合的な連携が必要であり、教育委員会、人権擁護委員会等外部機関等との連携も必要である。教員には、相談しにくい児童生徒もいる。さわやか相談員は有効であり、月2回の訪問に拡張したい。また、いじめホットラインは有効であり、匿名相談、身元が不明でも受け止めることが必要である。不登校児童生徒増加の中、原因、背景を見極めるため、学校、家庭、児童委員、専門機関等の連携強化を深めたい。教育センターは有効であるが、センター相談に至らない事もある。教職員の人権感覚は重要である。個々の場面では人権問題も発生する可能性あり、教職員の意識改革と学校の雰囲気は重要な点である。

事業名	中学校部活動支援事業	15
-----	------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅲ 健やかな体の育成	担当	指導課
施策	施策1 児童生徒の体力向上		

●事業の概要

主な目的・内容	部活動の充実を図るため、各中学校にアッピ一部活動サポーター及びアッピ一部活動コーチを配置するとともに、適切な地域移行を検討する上尾市立中学校部活動地域移行推進協議会を設置します。また、部活動生徒の全国・関東大会等への参加経費を補助し、参加生徒の負担軽減を図ります。
主な対象(数)	(アッピ一部活動サポーター)全中学校に対して最大で45人を配置 (アッピ一部活動コーチ)全中学校に対して、最大で11人を配置 (全国・関東大会等に出場する生徒の派遣に係る費用)全国・関東大会に出場した生徒数

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	4,620 千円	4,238 千円	4,108 千円

※アッピ一部活動コーチ
7,080千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
アッピ一部活動サポーターの配置総数	43	45	45	全市立中学校対象
全国・関東大会等に出場する生徒の派遣に係る費用の補助回数	16	14	10	全国・関東大会に出場する生徒の派遣に係る費用の補助を適切に行う数
アッピ一部活動コーチの配置総数	0	0	11	全市立中学校対象

●当該事業の評価

成果	部活動指導員の適切な配置をするとともに、全国・関東大会等への派遣にかかる費用を負担し、保護者の負担を軽減することができました。中学校部活動では顧問の高齢化や人事異動等により、技術指導を行える指導者が不在となり、活動が停滞したり存続が難しくなったりする等の状況が問題化していますが、市内では、技術指導を中心とした、部活動指導員を各中学校に配置し、生徒の技能や活動に対する意欲の向上を図ることができています。
課題	これまでの部活動指導員は、教師を補佐する立場で指導を行っております。休日の部活動の段階的な地域移行を推進する上で、上尾市における中学校部活動指導員では、教師に代わる指導や大会引率などを行えないことが課題となっています。
方今向後性の	令和5年度より、従来の部活動指導員をアッピ一部活動サポーターとして継続するとともに、新規に教師に代わる指導や大会引率などを行うことができる部活動指導員をアッピ一部活動コーチとして導入します。また、上尾市における最適な部活動の地域移行を果たすため、中核を担う上尾市立中学校部活動地域移行推進協議会を設置します。
目標・施策に対する評価に	第3期上尾市教育振興基本計画「第2章 施策の展開 目標Ⅲ 健やかな体の育成 施策1 児童生徒の体力向上」における中学校の課題③に対する着実な支援につながっております。

事業名	児童生徒体力向上推進事業	16
-----	--------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅲ 健やかな体の育成	担当	指導課
施策	施策1 児童生徒の体力向上		

●事業の概要

主な目的・内容	市立小・中学校の児童・生徒の体力向上を図り、心身ともに健やかでたくましい人づくりを目指すための事業です。上尾市中学校体育連盟の学校総合体育大会及び県民体育大会兼新人体育大会の市内予選会や小学校体育連盟の陸上競技大会などの実施をとおして、児童・生徒の体力向上を目指しています。 令和4年度においては、小学校体育連盟・中学校体育連盟が円滑に事業を進められるように、補助金等を交付しました。
主な対象(数)	市立小・中学校児童・生徒

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	1,738 千円	2,432 千円	5,736 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
新体力テストにおける市全体の総合評価A+B+C児童生徒の割合	一部実施 ※全種目を実施しない学校有り	県目標値をクリアした学校は2校	県目標値(小:80%・中:85%)を上回る	

●当該事業の評価

成果	小・中学校の各体育連盟が、新型コロナウイルス感染症拡大の対策を取りながら、工夫して体育的行事を行いました。
課題	新体力テストの数値が、過去最低を更新しております。特に小学校における体力低下は著しく、コロナ禍における運動量、活動量の低下等による影響を大きく受けています。 また、小学校における親善球技大会の中止、陸上競技大会の全校参集型での実施の見合わせ等、例年と同じような活動ができないことがありました。
方向性の	体育授業の工夫・改善を通して、運動好き、体育好き児童生徒の育成に取り組み、生涯に渡って体力向上に取り組めるようにします。 また、体育的行事についても、原則として、コロナ禍以前の行事を実施するとともに、児童生徒の実態に即した内容への改善を図っていきます。
目標・施策に対する評価	県目標値にクリアした学校に限らず、市内全小・中学校において、感染症対策を講じた上での体育授業の充実に注力し、体力向上に向けた取組を着実に進めています。また、体育授業の工夫・改善を通して、運動好き、体育好き児童生徒の育成を目指す意識が、各校で高まっています。これらを踏まえ、第3期上尾市教育振興基本計画「第2章 施策の展開 目標Ⅲ 健やかな体の育成 施策1 児童生徒の体力向上」における課題①に対する着実な支援につながっていると考えております。

事業名	学校健康診断及び健康管理事業	17
-----	----------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅲ 健やかな体の育成	担当	学校保健課
施策	施策2 学校保健の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	児童・生徒等の健康の保持増進を図るため、疾病・異常を早期に発見し保健指導を実施します。また、児童・生徒がその発達段階に応じて自主的に健康で安全な生活を実践することのできる能力と態度を身に付けさせます。
主な対象(数)	市立小・中学校児童・生徒、就学前児童

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	79,903 千円	79,346 千円	82,779 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
DMF保有数	0.30	0.33	0.29	過去に虫歯になったことがある歯の本数を表したものの

●当該事業の評価

成果	学校保健安全法に基づき、児童・生徒の健康診断や各種検査を定期的実施し、疾病の予防や早期発見、早期治療につなげることで、健康の保持・増進を図ることができました。 過去にむし歯になった本数を表すDMF保有数は、定期健康診断や歯科保健活動により極めて少ない状況にあります。
課題	現在の児童・生徒には、肥満・痩身、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患の増加、性に関する問題など、多様な課題が生じています。これらの複雑化する健康課題の解決については、専門的な視点での対応や地域や関係機関との連携が不可欠であるため、上尾市養護教諭部会研究協議会や上尾市保健主事部会研究協議会などを活用し、総合的な体制づくりについて協議を進めていく必要があります。
方向性の	各学校では、今日の健康教育の様々な課題に対応するため、学校保健計画を作成し、学校保健委員会などの場で、養護教諭や保健主事を中心に解決に向けた対応策を協議していきます。 また、専門家の講演や体験活動を実施し、児童・生徒が正しい知識を習得したり、健康な生活を送ろうとしたりする自己管理能力の向上につなげていきます。
目標・施策に 対する評価	自らの健康状態に関心を持ち、治療を行うことで、健康で安全な生活を実践することができるよう能力の獲得につながっています。

事業名	学校環境衛生検査事業	18
-----	------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅲ 健やかな体の育成	担当	学校保健課
施策	施策2 学校保健の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	上尾市立小・中学校の衛生的な環境の維持・改善を図ることを目的に学校薬剤師による検査、指導を行います。 関連法令に基づき、照度、ダニ、空気、飲料水、プール、給食室等の定期的、臨時的な検査を実施します。
主な対象(数)	上尾市立小・中学校(向原分校を含む)の施設内

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	12,506 千円	14,505 千円	16,224 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
再検査	延べ4校	延べ2校	延べ3校	学期ごとに実施する給食室衛生検査の再検査実施校数

●当該事業の評価

成果	学校薬剤師からの各種検査の結果に基づく指導助言を通じて、衛生的な学校環境の整備を行うことができました。
課題	学校環境衛生管理マニュアルには、浮遊粉じん検査を毎学年2回定期に実施することになっていますが、検査機器の不足により、2回目の検査スケジュールが組めない場合があります。
方今後の向性の	学校環境衛生管理マニュアルに沿った検査回数が実施できるように、検査機器を調達することに加え、学校薬剤師と相談し、スケジュールを調整していきます。
目標・施策に 対する評価	各学校では、昨今の健康教育の様々な課題に対応するため、学校保健計画を作成し、学校保健委員会などの場で、養護教諭や保健主事を中心に解決に向けた対応策を協議しています。 また、専門家の講演や体験活動を実施し、児童生徒が正しい知識を習得したり、健康な生活を送ろうとしたりする自己管理能力の向上につなげています。

事業名	保健室管理運営事業	19
-----	-----------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅲ 健やかな体の育成	担当	学校保健課
施策	施策2 学校保健の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	小・中学校の保健室で使用する医薬品、ベッドリネン類、保健室備品の整理、オージオメータ・計量器の定期検査、備品の整理を行います。
主な対象(数)	全市立小・中学校

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	4,353 千円	4,235 千円	4,427 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
オージオメータ検査合格割合(%)	96.50	100	98	合格台数/検査台数
オージオメータ検査合格台数(台)	56	57	59	検査合格台数(台)

●当該事業の評価

成果	保健室で使用する医薬品や備品を整備することにより、児童・生徒が安全で、安心した学校生活を送ることができています。 また、オージオメータ等の検査を適切に実施することにより、機器の不具合をいち早く発見して、買い替え等の対応ができています。
課題	保健室の備品(オージオメータや保管庫等)が、経年劣化により順次、買い換えが必要となっています。
方今後性の	限られた予算の中で、優先度の高い備品から購入をすることにより、保健室業務に支障が出ないようにします。
対する評価に	健康診断関係器具、応急処置用器具、ベッド等保健室に必要な備品を整備し、保健室の機能を十分に果たせる機能を保持できています。

事業名	調理場備品等整備事業	20
-----	------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅲ 健やかな体の育成	担当	中学校給食共同調理場
施策	施策3 食育の推進・学校給食の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	中学校給食共同調理場及び各中学校調理室の設備、厨房調理機器等の整備・更新を行います。また、食器、洗剤、調理用品等の消耗品を購入します。
主な対象(数)	中学校給食共同調理場及び中学校調理室(11校)

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	70,614 千円	58,581 千円	40,583 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
給食停止日数	0日	0日	0日	給食設備や衛生管理面等に起因する給食停止日数

●当該事業の評価

成果	老朽化した厨房設備及び備品等の修繕(洗浄機、焼物機等)や更新(揚物機、消毒保管機等)を行うとともに、衛生管理などの観点から、主菜用の食缶について保温効果のある二重食缶を導入しました。 また、衛生管理用の消耗品を購入して適切に使用することにより、給食停止日数を0日に抑えることができました。
課題	厨房設備及び備品等の老朽化が進んでいます。これらの故障発生時には給食提供に大きな影響を与えてしまう可能性があります。
方今後性の	厨房設備及び備品等に不具合が発生した際には、修繕や更新により対応しています。今後も安全安心な給食提供のため、厨房設備及び備品の修繕や更新を引続き計画的に行っていきます。
対する評価に	学校給食の提供体制を施設や設備等の面から整備し、衛生管理を徹底することにより、充実した学校給食を継続して提供するとともに、生徒の健やかな体の育成に寄与することができました。

事業名	小学校給食食器更新事業	21
-----	-------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅲ 健やかな体の育成	担当	学校保健課
施策	施策3 食育の推進・学校給食の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	給食で使用する食器(PEN樹脂)、トレイ(FRP製)の更新は、7・8年サイクル(傷などの間に細菌が入るなど衛生上の理由)で総入れ替えを行っています。今回は平成23年度から27年度に行い、今回は令和2年度から3年間かけて更新を行いました。
主な対象(数)	

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	2,719 千円	5,804 千円	0 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
トレイ入替枚数	2930枚	6350枚	-	食器・トレイを定期的に更新

●当該事業の評価

成果	令和4年度は、10校(上尾小、中央小、大石小、原市小、鴨川小、今泉小、西小、東町小、平方北小、上平北小)整備しました。
課題	物価高騰にともない、食器更新にかかるコストが大きくなっていることから、可能なかぎり支出金額の平準化を図っていく必要があります。
方向性の今後の	令和6年度からボール・二つ仕切り皿の更新を開始します。
目標・施策に対する評価	令和4年度の更新で市内全小学校のトレイ更新が完了しました。

事業名	小学校給食室設備整備事業	22
-----	--------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅲ 健やかな体の育成	担当	学校保健課
施策	施策3 食育の推進・学校給食の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	給食調理に必要な厨房備品等の更新や修繕及びの保守点検や清掃などを行います。
主な対象(数)	回転釜、フライヤー、オーブン、食器洗浄機、熱風消毒保管庫、球根皮むき機、牛乳保冷库、冷蔵庫等

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	36,248 千円	36,080 千円	41,307 千円

●当該事業の評価

成果	老朽化した厨房機器及び備品等の修繕や更新を行いました。
課題	厨房機器によっては、故障による入替えが生じた場合に設置まで一定の日数が必要になる。その間に給食提供を中止することとなるため、更新機器の選定を慎重にする必要があります。
方今後性の	今後購入する消耗品の傾向と必要数などのデータをとり、正確な予算要求を行っていきます。
目標・施策に対する評価	令和4年度での厨房機器の入れ替えは順調に行うことができました。修繕事業では、高額な修繕が立て続けにありましたが、厨房機器の影響による給食の停止はなく、安定した給食提供を行うことができました。

事業名	小学校給食管理運営事業	23
-----	-------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅲ 健やかな体の育成	担当	学校保健課
施策	施策3 食育の推進・学校給食の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	学校給食の献立作成に必要なパソコンの維持管理に必要な経費を支出し、安全衛生に主眼をおいた調理員等の春季・夏季2回の研修会を実施した。給食会計の透明性の向上と教職員の負担軽減のため、小学校給食費を公会計化しました。
主な対象(数)	今年度より小学校給食費公会計化されたため、新規に賄材料費を計上しました。

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	31,916 千円	36,018 千円	607,066 千円

●当該事業の評価

成果	コロナ禍においてもオンラインを活用し、調理員に対する研修を実施することで、大きな事故もなく給食を実施できました。また、栄養計算ソフトを8訂の成分表に対応したバージョンに入れ替えるなど、おいしい、安全安心な学校給食の提供に向けた環境の整備を行いました。
課題	給食の食材費については、引き続き物価高騰が続いているため、今後の物価変動を注視しながら、賄材料費が不足しないように学校現場との連携が必要となります。あわせてガス代の変動にも注意していく必要があります。
方向性の今後の	令和5年度から公会計化を実施したことにより、賄材料費の支出や学校給食費の徴収を市で行うことになったため、業務が増加しました。今後は、業務の効率化を進めるため徴収システムの導入について検討していきます。
目標・施策に対する評価	おいしい、安全安心な学校給食を提供するため、春夏の調理員に対する研修を通じて、衛生管理意識の維持・向上に努めています。

事業名	小学校給食室衛生管理推進事業	24
-----	----------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅲ 健やかな体の育成	担当	学校保健課
施策	施策3 食育の推進・学校給食の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	小学校給食室の衛生管理を推進するために必要な消耗品、検査手数料、クリーニング、包丁研ぎ、給食室洗浄・消毒を行います。
主な対象(数)	・細菌検査(検便検査 月2回)・ノロウイルス高感度検査(10～3月 月1回)・給食室洗浄(22校 年1回)・給食室殺虫消毒(22校 年2回) ・給食室殺菌消毒(22校 年2回)

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	24,489 千円	26,182 千円	32,615 千円

●当該事業の評価

成果	・細菌検査・給食室洗浄・給食室殺虫消毒・給食室殺菌消毒を定期的に行い、安全安心な給食を実施できています。
課題	ノロウイルス高感度検査については、感染者が増える10～3月に検査を実施しています。しかし、それ以外の期間の流行に対応するため、実施期間を1年間に拡大する必要があります。
方向性の今後の	ノロウイルス高感度検査については、年間を通して実施できるよう検討していきます。今後も、速やかに検査の実施ができる体制を維持します。
目標・施策に対する評価に	安全安心な給食を提供できるよう、検査の機会を確保することができました。

事業名	中学校給食調理業務委託事業	25
-----	---------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅲ 健やかな体の育成	担当	中学校給食共同調理場
施策	施策3 食育の推進・学校給食の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	<p>適正な人員確保、経費縮減等の観点から、平成5年1月給食開始当初より、調理等業務(調理・配送・洗浄・ボイラー等管理)を業者に委託しています。</p> <p>・委託業者調理員等の人数(令和5年4月1日) 中学校給食共同調理場 40人(社員18人、パート22人) 中学校調理室(11校) 58人(社員11人、パート47人)</p> <p>・年間調理実施回数(令和4年度) 184回</p>
主な対象(数)	中学校給食共同調理場及び中学校調理室(11校)

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	228,866 千円	228,866 千円	228,866 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
給食停止日数	0日	0日	0日	給食設備や衛生管理面等に起因する給食停止日数

●当該事業の評価

成果	給食調理等業務(調理・配送・洗浄・ボイラー管理等)を経験豊富な業者に一括して委託することにより、衛生管理面等に起因する給食停止日数を0日に抑えることができました。
課題	共同調理場と各中学校給食室で調理したものをあわせて提供する独自方式を採用しているため、対応できる委託業者が限られてくることが考えられます。
方今 向後 性の	適正な人員確保、経費縮減等の観点から、引続き調理等業務の委託を行っていきます。
目標・ 施策に 対する 評価	衛生管理等の面において適切な調理等業務を業者に履行させることにより、安全安心な学校給食を提供できるとともに、生徒の健やかな体の育成に寄与することができました。

事業名	中学校給食献立作成事業	26
-----	-------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅲ 健やかな体の育成	担当	中学校給食共同調理場
施策	施策3 食育の推進・学校給食の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	中学校給食共同調理場の栄養士が献立原案を作成し、学校関係者により献立を審議決定します。
主な対象(数)	年間給食実施回数

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	126 千円	130 千円	138 千円

●当該事業の評価

成果	地元産の食材、郷土食や行事食などを取り入れつつ、栄養バランスのとれた魅力ある学校給食の献立を年度当初の予定通り184回作成しました。
課題	食材価格の上昇や納入業者数の減少などにより、安全安心な食材の調達や栄養バランスのとれた献立の作成への影響が懸念されます。
方今 向後 性の	引続き食材や献立内容を工夫するなどして、栄養バランスのとれた魅力ある給食を提供していきます。
目 標・ 施 策 に 対 する 評 価	栄養バランスのとれた魅力ある学校給食の献立を作成することにより、食育の推進や学校給食を充実させるとともに、生徒の健やかな体の育成に寄与することができました。

第三者評価者からの意見・提言

目標Ⅲ 健やかな体の育成

[施策1] 高齢化傾向にある部活動顧問の負担軽減のためには部活動指導員制度の充実が欠かせない。上尾市では、従来の部活動指導員をアッピー部活動サポーターとして継続しつつ、教師に代わり指導や大会引率などを行える部活動指導員を新たにアッピー部活動コーチとして導入する計画とのこと、注目し期待したい。中学校における部活動顧問の長時間勤務は近年深刻な問題となっており、教員志望者が大きく減少している原因の一つにもなっている。部活動の地域移行を着実に進めていただきたい。

[施策2] [施策3] 学校給食の役割は大きい。老朽化した厨房設備や備品等の修繕・更新などを実施し、安全安心な給食提供をお願いしたい。

学校保健の多様な課題に取り組むためには「チーム学校」による対応が求められる。WHOが提唱する「ヘルス・プロモティング・スクール（HPS）」（総合的で組織的な心身両面にわたる健康の地域拠点づくりの試み）の視点も踏まえた総合的な体制づくりの推進を望みたい。

●事業16【児童生徒体力向上推進事業】は、全国的な課題である。上尾市でも積極的に解決策を模索すべき重点事項である。評価指標の令和5年度目標に「県目標値(小80%・中85%)を上回る」とあるが、第3期上尾市教育振興基本計画の実績値指標は、小学校81.9%、中学校85.8%であり、5年後にはこれらを上回るように設定されている。指標を下げることは、努力、対応しないとの暗黙の意思表示と理解されかねない。目標・施策に対する評価(自己評価)は具体的にどのような取り組みがなされているのかが不明であり、取り組みの基本的な姿勢を抜本的に検討するが必要が必至。●目標Ⅲの多くの事業は、課題解決には必要経費の確保で解決できるものが多い。現場の努力はもちろんであるが、多くは経営・設置のマネージメント能力の向上が不可欠。

部活指導者は技量、適性、人格、経験を踏まえて登用したい。地域に指導できる人材がいても募集要項を知らない事実もあり啓発したい。昨今、朝マラソン、業間運動が減ったように思う。朝読書は増加したが、反面、運動習慣、運動量の弱い子もいる。学校で朝や業間運動も必要である。運動習慣の少ない子がいる。養護教諭は、学校の健康状況、発達状況、相談等に介在し、児童生徒の課題を具体的に把握している。保健主事は、健康に関して学校運営に関わり管理職と連携が大切。早寝、早起き、朝ご飯の実態はどうなのか再調査したい。市内の給食停止日数ゼロは素晴らしい。給食室の整備、備品確保も良い。物価高騰の中、食材の確保、材料費の不足等起きないように市と現場の連携を強化してください。また、突然にウイルスの発生は起こりうる。安心安全な給食の提供ができるように調理関係者のノロウイルス好感度検査等健康管理を充実させてください。

事業名	中学生社会体験チャレンジ事業	27
-----	----------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅳ 自立する力の育成	担当	指導課
施策	施策1 キャリア教育の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	<p>生徒の勤労観や職業観を育成し、社会性や自立心、表現力、礼儀作法、コミュニケーション能力などを養うため、市内中学校生徒が市内等の事業所等において2日間の社会体験活動を行います。</p> <p>また、ふれあい講演会を実施し進路指導・キャリア教育を推進します。教職員と事業所担当者・ふれあい講演会講師との打合せ、教職員やPTAによる各事業所等への巡回、校長による各事業所等への挨拶などを通して、学校、保護者及び地域との連携を深めていきます。</p>
主な対象(数)	<p>職場体験活動 全市立中学校第2学年生徒</p> <p>ふれあい講演会 全市立中学校生徒</p>

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額 (千円未満切捨)	34 千円	40 千円	691 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
ふれあい講演会実施	11	11	11	

●当該事業の評価

成果	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ふれあい講演会の実施のみとなりましたが、生徒は実際に働いている方の講話を聞き、働く意義や価値観を再確認し、「自分の未来像」と講話の内容を照らし合わせながら将来に向けた目標をより具体的にイメージすることができました。
課題	<p>現在、キャリア教育の必要性はますます高まっています。コロナ禍によって、社会体験チャレンジ事業の職場体験が中止になってしまいましたが、生徒の就学年度によって格差が生じないように、学習内容を工夫する必要があります。</p> <p>令和5年度より、社会体験活動を再開するにあたり、特に事業所への協力依頼において、学校、保護者、及び地域が相互に連携を深めていくことが求められます。</p>
方向性の	令和5年度から、社会体験活動を再開し、全市立中学校第2学年生徒が、市内の事業所等において、2日間の社会体験活動を行います。 ふれあい講演会については、引き続き実施します。
目標・施策に 対する評価	ふれあい講演会の実施を通して、生徒の勤労観や職業観を育成し、社会性や自立心、表現力、礼儀作法などを育成し、進路指導・キャリア教育を推進することができました。

第三者評価者からの意見・提言

目標Ⅳ 自立する力の育成

[施策1] コロナ禍の影響で3年続けて職場体験が中止になったことは大変残念である。

日本社会では、今後十数年で労働力不足が1000万人以上に達すると予測されている。AIやAI搭載ロボットが大量に労働の現場に導入される必要がある。内閣府によれば、これまでの情報社会（Society 4.0）に続くSociety 5.0は、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合する社会とされる。

社会体験活動においても、市内の事業所での体験とともに、AIやロボット、ドローンなどを活用している職場をオンラインで学校と結び見学するなど、Society 5.0にふさわしい社会体験を期待したい。

現学習指導要領では、キャリア教育において、職業を通して未来社会を創りあげていく資質・能力の育成を重視している。社会体験を社会参画力へと高めるための方策を工夫していただきたい。

●一目標、一事業である。社会体験事業は、必ず成果が必ず上がり、マイナスになることのない事業である。ふれあい講演会は、各中学校毎年1回、ルーチンワークとして実施であろうが、現場体験とのセットに意味がある。●第3期上尾市教育振興基本計画には、「中学生社会体験チャレンジ事業に参加して、進路意識の向上ができた生徒の割合」が指標として提示されている。実績値44.8%と低いのはやや気がかりであるが、当該基本計画終了時には、上向きベクトルで設定されている。しかしながら、目標・施策に対する評価（自己評価）には、数値的根拠が提示されていないため、エビデンスの示されない、非科学的なPDCAサイクルは全く無意味である。今少し市民に正対し、説明責任を果たしてほしい。

中学校キャリア教育は有効である。社会体験を通して、将来の目標、可能性を追求するとともに、目的として今何をすべきかの糸口になる。1年生からの基礎知識の理解、2年生でのキャリア体験実施、3年生の進路選択充実へ結びつけたい。体験できる事業所は、吟味、検討し拡大も必要。研究所、医療、学校の職場等も検討したい。流通関係、福祉関係、公共施設ではよく見かける。また、多くの企業は、パソコン使用、バーコード活用等あり社会の技術革新変化が激しい。こうしたスキル体験、現実の社会を理解することも大切、1次産業、2次体験も必要であり幅のある選択肢を知る。基礎的学習も必要である。また、ふれ合い講演会は、大切な学習であり市として一括で実施したり、学校単位で実施したり、地区単位で実施して充実させてください。キャリアコンサルタントの講演も有効である。

事業名	特別支援学級補助員派遣事業	28
-----	---------------	----

★重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標V 多様なニーズに対応した教育の推進	担当	学務課
施策	施策1 特別支援教育の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	特別支援学級において、担任教員の行う指導の補助にあたるため、特別支援学級補助員を特別支援学級が置かれている市立小・中学校に配置します。
主な対象(数)	市立小・中学校で必要とされる特別支援学級補助員の配置人数等

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額 (千円未満切捨)	42,472 千円	43,672 千円	45,562 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
特別支援学級補助員の配置人数	22人	22人	22人	

●当該事業の評価

成果	特別支援学級に在籍する児童・生徒の障害の種類や発達状況は様々であり、状況に即した適切な教育を行う上で、担任の教員だけでは負担が大きいのが現状です。そうした中で、1対1の対応が必要なときもあるため、補助員が担任教員の補助を行うことで大きな成果を上げています。
課題	現状では各小・中学校に1名の配置となっていますが、児童・生徒の障害の程度や発達状況に即した、きめ細やかな対応が必要となるため、特別支援学級数に応じた配置数が望ましいと考えます。
今後の方向性	各小・中学校の配置要望と児童・生徒の状況を勘案し、継続的に特別支援学級補助員の適切な配置に努めてまいります。
目標・施策に対する評価	担任教員の目が行き届かない場面を補助員が補うことで、児童・生徒が安全に学校生活を送ることができました。 また、児童・生徒に寄り添い、適宜叱咤激励しながら支援を継続することで、児童・生徒も望ましい行動を取れることが多くなりました。

事業名	中学校特別支援学級設置事業	29
-----	---------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅴ 多様なニーズに対応した教育の推進	担当	学務課
施策	施策1 特別支援教育の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	特別支援教育検討委員会の基本方針に基づき、計画的に市立中学校に特別支援学級、通教指導教室等を設置します。
主な対象(数)	特別支援学級設置が必要な中学校

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額 (千円未満切捨)	12,455 千円	27,377 千円	27,128 千円

●当該事業の評価

成果	特別支援学級未設置の市立中学校について、毎年度1校ずつ設置することで、特別支援学級全校設置に近づいています。(令和4年度末時点で11校中10校設置)
課題	現状では、市立中学校の特別支援学級全校設置が未達成(令和4年度末時点で11校中10校設置)です。全校設置により対象生徒が通学しやすい環境面を整えたいと考えています。
方今 向後 性の	市全体及び各学校における特別支援教育体制を整備し、令和5年度末までに特別支援学級の全校設置を行うことで、特別支援教育の更なる推進を図ります。 また、全校設置により当該児童生徒が通学しやすい配置となるよう、全市的な立場から、計画的に基盤整備を図ります。
目 標 ・ 施 策 に 対 す る 評 価	毎年度、1校ずつ特別支援学級を設置することで、特別な教育的支援を必要とする児童生徒1人1人のニーズに応じた教育を推進することができました。

事業名	特別支援教育推進事業	30
-----	------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標V 多様なニーズに対応した教育の推進	担当	指導課
施策	施策1 特別支援教育の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	特別支援教育研修会では、特別支援教育担当者が研修を深め、各小・中学校で適切な指導、必要な支援、授業改善が図られるようにします。
主な対象(数)	特別支援教育コーディネーター 特別支援学級及び通級指導教室担当教諭

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	173 千円	212 千円	240 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
特別支援学級及び通級指導教室担当者研修会	年2回	年3回	年3回	
特別支援教育コーディネーター研修会	年3回	年3回	年3回	

●当該事業の評価

成果	研修を通じて、特別支援教育コーディネーターを担当する教員の発達障害の児童・生徒への具体的な手立て及び対応について理解を深めることができました。 また、特別支援学級及び通級指導教室担当教諭の、特別支援学級における効果的なICTの活用方法についての理解を深めることができました。
課題	特別支援教育コーディネーター、特別支援学級及び通級指導教室担当教諭の資質及び専門性の向上が重要です。
今後の方向性	特別支援教育コーディネーター、特別支援学級及び通級指導教室担当教諭の育成と、専門性の向上、さらに校内支援体制の充実を目指して、県立特別支援学校の教諭や県立総合教育センター所員等を講師に招くなどしながら、計画的に研修を実施していきます。 また、特別支援学校教諭免許状取得を促進し、教員の専門性向上を図ります。
目標・施策に対する評価	特別支援教育コーディネーター研修を実施することで、教員の資質向上が図られ、各学校における特別支援教育に関する研修の実施や校内支援体制の整備が進められました。

事業名	小・中学校特別支援教育就学奨励事業	31
-----	-------------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標Ⅴ 多様なニーズに対応した教育の推進
施策1 特別支援教育の推進

担当	学務課
----	-----

●事業の概要

主な目的・内容	市立小・中学校に就学する一定の障害の程度に該当する児童・生徒の保護者または市立小・中学校の特別支援学級に就学する児童・生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、その負担能力の程度に応じ就学のための経費の一部を支給します。
主な対象(数)	市立小・中学校の特別支援学級に就学する児童・生徒の保護者

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額 (千円未満切捨)	8,527 千円	9,338 千円	12,791 千円

●当該事業の評価

成果	適正な審査に基づき支給することで、市立小・中学校に就学する一定の障害の程度に該当する児童・生徒、または市立小・中学校の特別支援学級に就学する児童・生徒の保護者に向けた経済的な負担軽減に伴う支援を行うことができました。
課題	学用品購入費においてレシート等により実費確認を行っていましたが、定額支給も自治体の判断で認められることとなりました。事務負担の面では軽減が考えられますが、支給額が大きく上回らないか、また、保護者負担の実情を合理的に説明できる金額を定額的に支給することができるのか、南部教育事務所管内の状況を見ながら判断を行っていきます。
方今 向後 性の	経済的な負担軽減のため継続的に支給を行い、今後も特別支援教育の普及奨励を行っていきます。
目 標 ・ 施 策 に 対 す る 評 価	経済的な理由により就学困難な家庭等に対し必要な援助をすることは、義務教育の円滑な実施を図るため必要であり、また、特別支援教育の普及奨励につながることができました。

事業名	教育相談事業	32
-----	--------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標V 多様なニーズに対応した教育の推進	担当	教育センター
施策	施策2 学校教育相談の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	児童生徒の健やかな成長のため、面接、電話、訪問、電子メール、オンラインなどによる教育相談を行い、子どもの自立を支援します。
主な対象(数)	市内在住の小・中学生

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	223 千円	232 千円	247 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
教育相談案件数 (実人数+電話相談(匿名))	580件	555件		教育センターの年間実教育相談件数
教育相談延べ回数 (面接相談+電話相談+メール相談)	15,383回	17,395回		教育センターの年間延べ教育相談件数
教育相談終結率	60%	59%	65%	終結件数/実相談件数×100

●当該事業の評価

成果	来所、訪問、電話、メール、オンラインといった様々な形態で、相談内容に応じて個別に助言したり、適切な関係福祉機関を紹介したりしながら、年間のべ17,395回の相談対応し、そのうち約59%が主訴の解決に至りました。
課題	相談内容が、複雑化、長期化しているケースが多く、1年間以内に相談が終結することは、難しいケースも多くあります。 相談件数が年々増加している現状から、受け入れる教育センターの専門職の人数、相談室スペースの面でも検討が必要な状況にあります。
方今向後性の	相談内容に応じて効果的な形態での丁寧な相談対応を行います。特に、長期化しているケースについては、有効な支援について多面的に協議していきます。また、オンラインを活用した相談や学習については、必要に応じて活用できる場を模索していきます。
対する評価に	近年、教育相談件数は過去最多の年間のべ件数を更新している状況ですが、それぞれのケースに丁寧に対応するとともに、学校、保護者とも連携することができ、子どもの社会的な自立に貢献しているといえます。

事業名	小・中学校就学援助費補助事業	33
-----	----------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標V 多様なニーズに対応した教育の推進	担当	学務課
施策	施策3 就学支援の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	経済的理由により就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対して、就学に必要な学用品費、学校給食費、新入学児童学用品費、修学旅行費等の一部を支給します。
主な対象(数)	市立小・中学校児童・生徒の保護者

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	59,020 千円	60,853 千円	82,316 千円

●当該事業の評価

成果	適正な審査に基づき支給を行い、経済的理由により就学困難な者への支援が図られました。
課題	支援の必要な方へ確実に制度を周知し、電子申請等を含めた申請の利便性の向上について検討を行います。
方今 向後 性の	経済的理由により就学困難な者への支援を引き続き行っていきます。
目標・ 施策に 対する 評価	準要保護者に対し、学用品費等の援助を行うことにより、経済的負担を軽減する効果が認められます。

事業名	学校給食費支援事業	34
-----	-----------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅴ 多様なニーズに対応した教育の推進	担当	学校保健課
施策	施策3 就学支援の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	<p>【学校給食費補助金】 市内に住所を有し、小中学校に在籍する児童生徒を3人以上養育する世帯に対し、第3子以降の児童生徒の学校給食費に相当する額を補助します。</p> <p>【準要保護児童生徒給食援助費】 教育委員会が要保護に準じて生活に困窮していると認めた、市内の小・中学校に在籍している学齢児童生徒の保護者に対し、学校給食費の援助を行います。</p> <p>【被災児童生徒就学等支援事業費補助金】※歳入※ 東日本大震災により被災し、経済的理由から就学困難となった児童生徒の保護者に対し就学支援を実施する場合、交付金として経費の全額を国庫から支援されています。</p>
主な対象(数)	<p>【学校給食費補助金】 小学生:520人 中学生:8人</p> <p>【準要保護児童生徒給食援助費】 小学生支給対象者数:873人 中学生支給対象者数:563人</p> <p>【被災児童生徒就学等支援事業費補助金】 小学生:2人 中学生:1人</p>

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	74,280 千円	94,304 千円	100,511 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
【学校給食費補助金】申請率	実施なし	97.78%	100%	補助対象者のうち、申請の意思が無い者を除く申請率。
【準要保護児童生徒給食援助費】対象者と援助額	1,520名 74,280,177円	1,436名 69,368,820円	認定結果及び請求に基づいて援助	援助の対象者数と援助金額
【被災児童生徒就学等支援事業費補助金】※歳入※対象者と補助金額	※人・金額は準要保護援助費に含む 3名 172,000円	※人・金額は準要保護援助費に含む 3名 146,000円	準要保護児童生徒給食援助費の中から	国庫から支援される補助金の対象者数と金額

●当該事業の評価

成果	学務課の認定結果を受け、各学校からの請求に基づいて適正な援助を行いました。
課題	学校給食費補助金の事務処理が煩雑であるため、保護者への支給までに時間を要しています。
方今後性の	事業は継続していきます。事務処理が属人化しないようにマニュアルを整備し、誰も処理ができる状態を作り、支給までの時間の短縮を図ります。
策目標に評価する	経済的理由により就学困難な児童生徒の保護者に対して援助を行うことによって、義務教育を支えることができました。

事業名	要保護児童生徒医療費援助事業	35
-----	----------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標V 多様なニーズに対応した教育の推進	担当	学校保健課
施策	施策3 就学支援の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	市内小・中学校に在籍している要保護の児童・生徒の保護者に対し、学校病(感染症又は学習に支障を生ずるおそれのある疾病)についての医療費を援助します。
主な対象(数)	要保護の児童、生徒

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	104 千円	94 千円	105 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
要保護児童生徒の受診率	33.33%	28.57%	33.00%	医療券使用数/診療科別勧告数(要保護)

●当該事業の評価

成果	医療券を交付し、保護者に受診を促すことで、要保護児童・生徒の健康保持増進につながっています。
課題	交付した医療券の半数以上が未使用となっており、治療が遅れるなど対象児童・生徒の疾病の健康保持への懸念が生じます。
方今後性の	学校保健安全法の規定に沿って援助を継続していきます。引き続き、保護者に対し、制度を説明し、受診への働きかけを促していきます。
目標・施策に対する評価	医療券の交付により、要保護の児童、生徒に対し就学支援をすることができました。

事業名	入学準備金・奨学金貸付事業	36
-----	---------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標V 多様なニーズに対応した教育の推進	担当	教育総務課
施策	施策3 就学支援の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	高等学校や大学等への進学を意欲を有する者で経済的な理由により修学が困難な者やその保護者に入学準備金又は奨学金の貸付をし、進学を支援を行います。
主な対象(数)	高等学校、高等専門学校、専修学校(高等課程)や大学、短期大学、専修学校(専門課程)に進学予定の人、及びその保護者。

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	3,140 千円	3,440 千円	5,480 千円

●当該事業の評価

成果	入学準備金・奨学金貸付事業においては、進学を意欲を持っているものの、経済的に困難な事情を有する者9名に、公正な審査に基づく貸付を行い、平等に教育を受ける機会を確保できました。 奨学金貸与に関しては、法改正に基づき、令和3年度から借用書に印紙税が課されないよう申請者の負担軽減を図っています。 ホームページにより、独立行政法人日本学生支援機構や埼玉県など他の貸付制度の周知も行いました。
課題	入学準備金・奨学金貸付事業は、進学者の修学時の一助となっていますが、その返済において、保護者又は学生自身が安易に滞納することのないよう、納付状況を注視しながら、適切な納付相談、督促を行い、滞納の防止に向けて、働きかけていく必要があります。
方向性の	高校生等に関しては、授業料を支援する「高等学校等就学支援金」や授業料以外の教育費を支援する「高校生等奨学給付金」など、国や県が修学を支援する制度を実施しており、大学生等に関しても、日本学生支援機構が給付型の奨学金制度を実施するなど、様々な支援が広がっています。 今後も国や県、他市町村の動向を注視しながら、本事業を実施してまいります。
目標・施策に対する評価	国や県などで授業料の支援や免除・減免、給付型の奨学金制度など経済的な支援が進められていますが、上尾市で実施している入学準備金や奨学金の貸付制度は、無利子で実施しており、毎年一定数の利用があります。 令和4年度においても市民にとって身近な制度として進学意欲がありながら経済的に困難な生徒やその保護者に活用されました。

事業名	英語教育推進事業	37
-----	----------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標V 多様なニーズに対応した教育の推進	担当	指導課
施策	施策4 グローバル化に対応する教育の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	<p>小学校では1・2年生の英語活動、3・4年生の外国語活動及び5・6年生の外国語科の授業を通して、外国語に慣れ親しみ、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育成します。</p> <p>中学校では、外国語科の授業を通して、英語力の向上、コミュニケーション能力の育成を図っています。</p> <p>児童・生徒が、国際社会において、外国の方と積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力や英語力、態度を身に付けるための体験的学習や国際理解教育を推進するため、ALTを配置します。また、中学校では、生徒が、英語に対する興味・関心を高め、英語力の向上を図るために、英語弁論大会を実施します。</p>
主な対象(数)	市立小・中学校の全児童・生徒

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	121,467 千円	136,866 千円	161,596 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
小・中学校ALT配置人数	36人	36人	36人	
授業準備を除く、ALT活用率(小学校)	68.9%	73.1%	80.0%	
授業準備を除く、ALT活用率(中学校)	81.0%	78.4%	80.0%	

●当該事業の評価

成果	<p>ALTの配置においては、小・中学校においてALTとのチーム・ティーチングを実施し、英語教育の充実を図ることができました。また、英語の授業以外に、休み時間等を活用し、児童とALTが自由に会話を楽しむイングリッシュトークを実施し、日常的にALTと触れ合う機会を充実させることができました。</p> <p>中学校では英語弁論大会の指導等においてもALTを活用し、成果を上げています。ALTは、教員対象の夏季実技研修会等においても指導力向上のために指導・助言しています。</p>
課題	<p>これまで、ALTの質の確保と、授業外での効果的な活用法が課題となっていました。</p>
方今向後性の	<p>令和5年度から令和7年度までの3年間、ALTの派遣業務について、小・中学校ともに、同一業者と長期継続契約を締結し、原則として、同一ALTが同一校に3年間勤務することとなりました。教育委員会、学校、委託業者が連携をしながら、ALTの資質の向上や、より効果的な活用に向けて取り組んでいくことが求められます。</p> <p>上尾市英語弁論大会については、令和5年度は保護者の参観を可とし、従来の形に近づけて実施します。</p>
目標・施策に対する評価	<p>ALTの効果的な活用は、児童・生徒の英語学習の意欲向上に繋がります。小学校のイングリッシュトークでは、児童は、生きた英語と触れ合う機会を多く設けることができました。</p> <p>小学1・2年生の英語活動の実施により、小・中9年間を見通した英語教育を行うことができました。</p>

事業名	日本語指導職員派遣事業	38
-----	-------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標V 多様なニーズに対応した教育の推進
施策4 グローバル化に対応する教育の推進

担当	学務課
----	-----

●事業の概要

主な目的・内容	日本語が理解できない児童・生徒に対し、日本語習得の指導や支援を行うため、在籍する小・中学校に日本語指導職員を配置します。
主な対象(数)	-

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額 (千円未満切捨)	3,834 千円	4,962 千円	5,996 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
日本語指導職員の配置状況	100% (37人/20人)	100% (40人/18人)	100% (56人/20人)	対象児童・生徒数/対応した日本語指導職員の人数 ※職員が兼務し、100%配置

●当該事業の評価

成果	日本語の理解が十分でない児童・生徒にも、平等に教育を受けさせる機会を確保することができました。児童生徒1人に対して、指導職員1人が対応することで、日本語理解の支援となりました。同時に複数の児童に対応している指導職員もいますが、複数の児童がいることで、コミュニケーションをとることができました。
課題	日本語指導を必要とする児童・生徒の増加が予想されます。また、母語の多様化が進み、特にアジア圏の言葉を母語とする児童生徒が増えています。
今後の方向性	日本語指導は、必ずしも児童・生徒の母語を話さなければならないわけではありませんが、指導に係るコミュニケーションを円滑にするためにも様々な言語に対応できる日本語指導職員を任用していきます。また、新型コロナウイルス感染症が下火になったことに伴い、外国人の流入が予想されます。日本語指導を受けられない事態が生じないように人数の推移について注視していきます。
目標・施策に対する評価	日本語が理解できない児童・生徒に対し、日本語習得の指導や支援を行うため、在籍する小・中学校に対し、適切に日本語指導職員を配置することができました。

事業名	中学生海外派遣研修事業	39
-----	-------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標V 多様なニーズに対応した教育の推進	担当	指導課
施策	施策4 グローバル化に対応する教育の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	中学生に豊かな国際感覚を養い、国際社会に貢献できる人材として必要な能力や態度を育成する教育活動の一環として、市立中学校に在籍する生徒を対象に、11日間の海外派遣研修を実施します。 上尾市中学生海外派遣研修事業の派遣先である、オーストラリアクィーンズランド州ロッキヤーバレー市のロッキヤー高校の生徒とオンライン交流を実施します。
主な対象(数)	海外派遣研修:市立中学校第3学年生徒 各校2名 計22名 オンライン交流:市立中学校各4名 計44名

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	0千円	0千円	18,536千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
オンライン交流の回数	12回	16回	11回	

●当該事業の評価

成果	学校ICT支援員を活用し、機材の設営、撮影、ネット接続等、全面的なサポートにより、Zoomの接続や音声、画像、資料共有等、問題なくスムーズに交流することができました。事前にプレゼンテーションの資料(発表生徒のリストや発表内容、発表原稿等)を双方で共有することで、プレゼンテーションの内容についての理解が深まり、質疑応答も活発に行うことができました。
課題	学校のネット環境が脆弱であるため、今後、増強工事により、ネット環境が改善すれば、各校が自由にロッキヤー高校と交流ができるようになると思われます。また、Webカメラ、三脚、集音マイク等の機材の充実を図るなど、オンライン交流に必要な環境を整えることが必要です。
方向性の今後の	令和5年度は、上尾市中学校海外派遣研修を4年ぶりに再開し、22名の生徒を、オーストラリアに派遣します。 オンライン交流についても、対象生徒や内容を工夫しながら継続します。
目標・施策に対する評価	ロッキヤー高校7年生(中学1年生)の生徒を対象とした「日本語」の授業において、上尾市の中学校の生徒が簡単な日本語と英語を交えて、それぞれの「学校生活」をテーマにプレゼンテーションを行いました。新型コロナウイルス感染症による国境の閉鎖等による困難な時期に、異文化交流・異文化理解を積極的に行うことはこれまで以上に重要だと思われます。

第三者評価者からの意見・提言

目標V 多様なニーズに対応した教育の推進

〔施策1〕 〔施策2〕 日本は、「障害者の権利に関する条約」に2014年批准しており、2022年9月には国連の障害者権利委員会から日本政府に勧告が出された。勧告には、「インクルーシブ教育の権利を保障すべき」、との記述がある。インクルーシブ教育とは、「障害のある者と障害のない者が可能な限り共に学ぶ仕組み」であり、ユネスコはより広義に「多様な子どもたちがいることを前提とし、その多様な子どもたちの教育を受ける権利を地域の学校で保障するために、教育システムそのものを改革していくプロセス」と定義している。インクルーシブ教育システムの構築に向けて、自治体3:5レベルにおけるより充実した体制整備を期待したい。

〔施策3〕 日本の子供（17歳以下）の貧困率は11.5%（2021年、厚労省）と改善傾向であるが、ひとり親世帯の最貧困層が増加しており、より効果的な再分配政策が必要である。就学支援等の更なる推進を望みたい。

〔施策4〕 オーストラリアの高校とのオンライン交流が続いていることは喜ばしい。

●当該目標のうち、【施策1】及び【施策4】の事業群は、着実に実施されることが要求される。その点で、順調な遂行が見て取れる。●事業32【教育相談事業】は、社会や暮らしの多様化の潮流の中で、ますます対応件数が増大するものと考えられる。より一層きめ細かい対応を期待するとともに、全てマンパワーで解決できないとの視点を組織的に共有しながら、着実な体制整備を期待したい。●事業38【日本語指導職員派遣事業】は、当該事業評価の課題に挙げられているように、増大する需要に工夫を凝らして対応していることが見て取れる。ただ、職員の兼務は、過剰な負担にならないか危惧されるところでもある。●第3期上尾市教育振興基本計画に掲げられている指標「日本語指導職員による教育支援を受けた児童生徒数」は、当該年度評価指標「日本語指導職員の配置状況」の方が事業の遂行状況が明確になっている。改善していると捉えられる。●第3期上尾市教育振興基本計画に掲げられている指標「不登校児童生徒の関係機関等の連携率」は、どの事業の指標となっているのか不明。

支援を要する児童への支援体制は評価する。中学校特別支援学級は、実態を見極め必要に応じ設置したい。特別支援教育コーディネーターの専門性と資質向上は必須です。経済的理由で就学困難家庭への援助は、義務教育の円滑な実施のため適切である。学校教育相談では、児童・生徒からの声をしっかり受け止める。教育センターや教育委員会窓口の役割は大きい。他の手段として無料電話相談等ある。相談案件には、子供同士、家庭がらみ、教職員とのトラブル等様々あり、小さな声も受け止め楽しい学校生活を実現させてください。

小・中学校就学援助補助事業の継続、入学準備金、奨学金貸付等は継続推進したい。また、交付した医療券の未使用の理由と背景は探る必要がある。

英語教育は、家庭の英語的な環境も影響する。ALTとの学校での交流頻度増加やワールドフェア等学校以外のイベントへ参加も機会として有効である。中学生海外派遣事業は、充実している。帰国生徒の報告会やその後の成果発表、活用、波及も期待したい。

事業名	教職員健康管理事業	40
-----	-----------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標VI 質の高い学校教育のための環境の充実	担当	学校保健課
施策	施策1 教職員の資質・能力の向上		

●事業の概要

主な目的・内容	教職員等の健康を保持するため、定期健康診断や胃検診、B型肝炎抗体検査、医師の面接指導、ストレスチェックを実施します。
主な対象(数)	市内・中学校の教職員(市費・県費・調理員)

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	15,161 千円	15,288 千円	16,534 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
高ストレス者に占める医師の面接利用率	1.75	1.53	7.69	医師による面接利用者数／高ストレス者数
面接利用者(人)	2	2	10	医師による面接利用者数

●当該事業の評価

成果	<p>定期健康診断や胃検診は、学校保健安全法に基いて実施し、疾病の予防や早期発見、早期治療につなげることで、健康の保持・増進を図ることができました。</p> <p>医師の面接指導は、労働安全衛生法に基づいて実施し、過重労働による健康不安の申出に対し、健康診断とは別に医師の指導助言を受けられる体制を整えました。</p> <p>B型肝炎抗体検査は、養護教諭に実施することで、感染防止につなげています。</p> <p>ストレスチェックについては、ストレスの程度を把握し、自身のストレスへの気づきを促すとともに、職場改善につなげました。</p>
課題	<p>教職員の働き方改革が進んでいる中で、教職員のメンタルヘルス不調を未然に防止することや適切な対処によって心の健康を守ることが極めて重要となっています。そのため、今後も効果的な実施方法を検討しながら継続していく必要があります。</p>
方今後性の	<p>教職員等の健康を保持するため、定期健康診断や胃検診、B型肝炎抗体検査、医師の面接指導、ストレスチェックを継続して実施していきます。</p>
目標・施策に対する評価に	<p>市教育委員会で教職員の心身の状態を把握し、学校医及び産業医の助言も受けながら対応できました。</p>

事業名	小・中学校業務改善支援事業	41
-----	---------------	----

★重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標VI 質の高い学校教育のための環境の充実	担当	学務課
施策	施策2 学校経営の改善・充実		

●事業の概要

主な目的・内容	教員がより一層児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備することを目的とし、教員の業務支援を行う補助員の配置、「統合型校務支援システム」の整備による指導要録と通知表の連動等により、学校教育活動の一層の充実を図ります。
主な対象(数)	市立小・中学校で必要とされるスクール・サポート・スタッフの配置人数、統合型校務支援システムの整備等

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額 (千円未満切捨)	8,182 千円	29,106 千円	201,499 千円

令和4年度決算から統合型校務支援システム分の決算額を含む

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
スクール・サポート・スタッフの配置人数	33人	33人	33人	

●当該事業の評価

成果	<p>スクール・サポート・スタッフが授業準備補助等を行うことで、教職員の負担軽減に貢献しています。その結果、教員がより一層児童・生徒への指導や教材研究等に注力できる体制の整備につながっています。</p> <p>統合型校務支援システムの整備により、指導要録や通知表等の連携を強化し、業務の負担軽減による教育の質の向上につなげるための導入となっています。</p>
課題	<p>現状では各小・中学校に1名配置、週2日もしくは週4日勤務となっています。しかし、学校は教職員が児童・生徒への指導や教材研究等に注力できる体制の一層の充実を望んでおり、全ての学校で週4日程度の勤務を希望しています。</p> <p>導入年度であるため、マニュアルを見たり、ヘルプデスクを利用しながら、実際に操作をしつつ機能を理解する必要があります。導入前の調整で気付くことができなかった課題もあり、改めて調整する必要があります。</p>
今向後の方向性	<p>現状では各小・中学校に1名配置、週2日もしくは週4日勤務となっていますが、全ての学校で週4日程度の勤務体制にしたいと考えています。</p> <p>現在、多くの機能から出力される紙の帳票を原本としており、管理方法について検討していかねばならないと考えています。</p>
目標・施策に対する評価	<p>スクール・サポート・スタッフが授業準備補助等を行うことで、教員がより一層児童・生徒への指導や教材研究等に注力できる体制の整備につなげることができました。</p> <p>統合型校務支援システムの整備により、R5.4.1に全校34校に設置が完了しました。</p>

事業名	通学区域検討事業	42
-----	----------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標Ⅵ 質の高い学校教育のための環境の充実
施策2 学校経営の改善・充実

担当	学務課
----	-----

●事業の概要

主な目的・内容	小・中学校の通学区域の編成に関し基本的かつ総合的に調査審議するための「上尾市立小・中学校通学区域審議会」を運営します。
主な対象(数)	審議会の開催数を年1回以上

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額 (千円未満切捨)	49 千円	49 千円	114 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
審議会の開催数	1回	1回	1回	

●当該事業の評価

成果	大規模道路の建設、区画整理時業の進捗による地理的な状況の変化に伴う登下校の安全確保、地域の実情を考慮し、計画的に通学区の変更を行っています。
課題	学区変更後、児童・生徒数の変化等の効果が出るまで時間が掛かります。
今後の方向性	今後とも必要に応じ、教育委員会の諮問に応じ、必要な調査・審議を行い答申します。
目標・施策に対する評価	第三者の意見をいただくことにより、客観的に見ることができます。

事業名	コミュニティ・スクール推進事業	43
-----	-----------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標VI 質の高い学校教育のための環境の充実	担当	指導課
施策	施策2 学校経営の改善・充実		

●事業の概要

主な目的・内容	学校・家庭・地域が一体となって、より良い教育の実現に取り組むために、地域のニーズを的確に学校運営に反映させるよう保護者や地域の方々が、学校運営協議会を通して学校運営に参加する仕組みの推進を目指しています。
主な対象(数)	全市立小・中学校

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	1,218 千円	1,253 千円	1,450 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
上尾市コミュニティ・スクール研修会	年1回	年1回	年1回	学校関係者、地域関係者が参加する研修会の実施回数
各小・中学校学校運営協議会合計開催回数	171回	174回	175回	各小・中学校の学校運営協議会の合計の開催回数

●当該事業の評価

成果	学校・家庭・地域が一体となって、より良い教育の実現に取り組むために、地域のニーズを的確に学校運営に反映させるよう保護者や地域の方々が、学校運営協議会を通して学校運営に参加する仕組みを推進できました。
課題	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各学校の学校運営協議会が中止や書面開催となり、十分な協議ができませんでした。感染対策と活動のバランスを考慮した取組を推進していきます。
方今 向後 性の	学校・家庭・地域が一体となって、より良い教育の実現に取り組むため、引き続き、上尾市コミュニティ・スクール研修会を通して、各学校の学校運営協議会の充実を図っていきます。
目 標 ・ 施 策 に 対 する 評 価	上尾市教育振興基本計画「目標VI 質の高い学校教育のための環境の充実」「目標VII 家庭・地域の教育力の向上」に位置付けられており、学校・家庭・地域が一体となって、育てたい子供像や目指すべき教育のビジョンを共有し、目標に向けた取組を推進することができました。

事業名	学校施設更新計画策定事業	44
-----	--------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅵ 質の高い学校教育のための環境の充実	担当	教育総務課
施策	施策3 学校環境の整備・充実		

●事業の概要

主な目的・内容	<p>持続可能な教育環境づくりを目指し、上尾市学校施設更新計画基本計画(令和3年5月策定)を改定します。</p> <p>計画改定にあたっては、18歳以上の一般市民や未就学児保護者へのアンケートのほか、児童生徒やその保護者、教員へのWEBアンケートにより幅広い対象者から意見聴取等を実施します。</p> <p>学校施設の延命利用化を図る観点から耐用年数を迎える校舎や体育館について、躯体の健全性調査等を実施します。</p>
主な対象(数)	全市立小・中学校

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	41 千円	18,237 千円	49,262 千円

※学校施設更新計画推進事業

※学校施設更新計画推進事業

●当該事業の評価

成果	<p>①市議会から提出された提言書(令和4年1月)や幅広い対象者から意見聴取したアンケート結果を踏まえ、令和5年3月に上尾市学校施設更新計画基本計画を改定することができました。</p> <p>②計画改定のために実施したアンケート調査では、一般市民や未就学児保護者、5・6年生の児童及び生徒、並びにその保護者、教員など約2万件の回答を得ることができました。</p> <p>③目標耐用年数が5年以内に到来する12棟(小学校4校、中学校6校)の校舎や体育館等において、躯体の健全性調査等を実施しました。</p>
課題	<p>小・中学校では、学校施設の老朽化、児童生徒数の減少(学校の小規模化)、学校規模の偏りなどが課題となっています。</p> <p>計画的・効率的な学校施設の更新方法を検討し、建替え時期や財政負担の平準化を図ることが課題となっています。</p>
方今後性の	<p>上尾市学校施設更新計画基本計画に基づき、上尾市学校施設更新計画実施計画を令和5年度末までに策定します。</p>
対する評価に	<p>持続可能な教育環境づくりを目指し、上尾市学校施設更新計画基本計画を改定することができました。</p> <p>本基本計画では、計画コンセプト「持続可能な教育環境づくり」を実現するため、①教育環境の整備方針、②学校規模の適正化方針、③学校施設の更新方針の3つの方向性を示すことができました。</p>

事業名	小・中学校図書整備事業	45
-----	-------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅵ 質の高い学校教育のための環境の充実	担当	教育総務課
施策	施策3 学校環境の整備・充実		

●事業の概要

主な目的・内容	子どもたちの自主的・自発的な学習活動を支援するとともに、豊かな感性や情操をはぐくむ読書活動を推進する役割を担う学校図書館図書の整備を推進します。
主な対象(数)	全市立小・中学校

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	27,360 千円	27,333 千円	23,982 千円

●当該事業の評価

成果	小学校の学校図書館図書について、令和4年度は、9,600冊を購入、7,052冊を廃棄し、年度末の現有冊数は229,401冊となりました。 また、中学校の学校図書館図書について、令和4年度は、5,211冊を購入、3,857冊を廃棄し、年度末の現有冊数は140,825冊となりました。
課題	学校図書館図書標準に対する整備率は、小学校全体では105.2%、中学校全体では103.4%と、全体では100%を達成していますが、学校別に見ると未達成の学校があります。
方今向後性の	引き続き、多くの学校が学校図書館図書標準に対する整備率100%を達成できるよう、学校図書館図書の更新や整備を進めていきます。
目標・施策に対する評価に	傷んだ図書の入れ替えやニーズに合わせた図書の整備などにより、児童・生徒が読書活動や探究活動などに意欲的に取り組むことに貢献しています。

事業名	小・中学校教育教材整備事業	46
-----	---------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅵ 質の高い学校教育のための環境の充実	担当	教育総務課
施策	施策3 学校環境の整備・充実		

●事業の概要

主な目的・内容	授業等で使用する学習教材の整備・充実を図ります。
主な対象(数)	全市立小・中学校

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	26,398 千円	27,467 千円	29,540 千円

●当該事業の評価

成果	各学校が、学校規模に応じて配分された予算の中で、教材整備指針に基づいて必要な教育教材を選定し、整備・更新しました。 老朽化したグランドピアノは、東小1台、東中1台の入替えを行いました。
課題	計画的な更新が必要な大型教材は、長年使用して老朽化しているものがあり、これらへの対応が求められています。
方今 向後 性の	引き続き、教材整備指針に基づいた教育教材の整備・更新を図るとともに、大型教材については計画的な更新に取り組めます。
目 標 ・ 施 策 に 対 す る 評 価	教育教材の整備・更新を図ることで、教員の指導、児童生徒の理解を深めることができました。

事業名	児童生徒安全推進事業	47
-----	------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅵ 質の高い学校教育のための環境の充実	担当	学校保健課
施策	施策4 学校安全の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	学校管理下における児童生徒の安全・安心を確保するため、AEDの配備や教職員向けの応急手当普及員講習会などを行います。また、学校管理下における災害(負傷、疾病、障害又は死亡)に対し、災害共済給付を支給します。
主な対象(数)	上尾市立小・中学校の児童・生徒、上尾市立小・中学校の教職員

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	21,313 千円	19,837 千円	22,135 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
応急手当普及員総資格者数	100人	100人	108人	

●当該事業の評価

成果	各学校で毎年開催する心肺蘇生法研修の講師を務める教職員に応急手当普及員資格を取得するための講習会(新規)と更新講習会を開催しました。
課題	児童・生徒の周辺に様々な危険が存在し、事件や事故に巻き込まれることがまれではない社会状況となっています。 そのため、児童・生徒が周囲の危険を自ら察知し、自分で考え行動できる力を養えるような視点での教育を実践していく必要があります。
方向性の今後の	各学校における全教職員参加の心肺蘇生法研修の実施により、学校生活において事故などが発生した際の対応に備えることができますが、応急手当普及員の資格を持つ教職員が人事異動等により減少することも考えられるため、新規資格取得者への講習や更新講習会を今後も開催していく必要があります。
目標・施策に対する評価	応急手当指導員資格取得のための研修会実施は、児童・生徒の安心安全な学校づくりを大きく前進させる取組になっています。 新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら、各学校における全教職員参加の心肺蘇生法研修を実施し、学校生活において事故などが発生した際の対応に備えることができました。

事業名	通学区見直し区域登下校サポート事業	48
-----	-------------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅵ 質の高い学校教育のための環境の充実	担当	学務課
施策	施策4 学校安全の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	学校規模の適正化や登下校の安全確保を主な目的とし、通学区の見直しを行っている。これらの区域において、通学班が整わない低学年について安全確保と保護者の不安を解消するため、登下校サポーターを配置する。
主な対象(数)	登下校サポーターの配置率(実際の配置人数/必要配置人数)

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	158 千円	150 千円	111 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
登下校サポーターの配置率	100%以上 (17/12)	100%以上 (13/12)	100%以上 (10/10)	実際の配置人数/必要配置人数

●当該事業の評価

成果	通学区を見直した区域で、通学班が整わない場合、登下校サポーターを配置しています。児童の安全確保、保護者の不安を解消につながっています。
課題	現在登下校サポーターを配置している区域において、高学年が通学班が整った場合は、登下校サポーターを無くすことを検討していきます。
方今 向後 性の	登下校時の児童の安全確保を考慮し、計画的に進めていきます。
目標・ 施策に 対する 評価	登下校サポーターの配置により、通学班が整わない低学年についての登下校時の安全確保をしているため、保護者からの要望等は特にございません。

事業名	学校安全パトロール事業	49
-----	-------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標VI 質の高い学校教育のための環境の充実	担当	学校保健課
施策	施策4 学校安全の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	児童・生徒及び地域の防犯に資するため、学校・PTA及び地域が連携し、中学校区を単位として青色回転灯付パトロールカーにより巡回します。
主な対象(数)	市立小・中学校児童・生徒

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	4,773 千円	4,054 千円	3,609 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
青色回転灯実施者証保有者数	4,686人	4,503人	4,503人	青色回転灯実施者証保有者数

●当該事業の評価

成果	令和4年度においては、11台の学校安全パトロールカーを運行し、月あたりのパトロール回数は1台月平均11.0回、1回平均の運行距離は15.5kmでした。 令和4年度の児童・生徒の交通事故件数は23件(自転車18件、徒歩5件)でした。
課題	活動員の高齢化と、人員の確保が課題となっています。仕事の都合で思うように活動できないため、気持ちがあっても登録できない方もいます。
方向性の	児童・生徒の安全確保に効果を上げ、地域の方々や各団体の協力を継続していただくことにより、地域防犯の意識向上にもつながっていることから、引き続き実施していきます。
対する評価に	児童・生徒の下校時間を中心に、市内全域でパトロールを実施していることから、犯罪や交通事故防止につながっています。

事業名	通学路安全対策事業	50
-----	-----------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標VI 質の高い学校教育のための環境の充実	担当	学校保健課
施策	施策4 学校安全の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	登下校中の児童・生徒の安全を図るため、グリーンベルトの設置や外側線の表示等の通学路改善工事を実施します。
主な対象(数)	市内小・中学校の通学路

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	1,251 千円	418 千円	1,000 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
工事箇所	9箇所	1箇所	1箇所	上尾市PTA連合会や各学校からの要望を受け対応した箇所数

●当該事業の評価

成果	地元住民と学校からの要望を受け、1箇所にグリーンベルトを設置し、通学路の安全対策を講じました。
課題	道幅の問題から、道路の片側のみの設置になってしまうなど、要望通りにならない箇所があります。
方今 向後 性の	児童・生徒の登下校時の安全確保のため、引き続き継続していきます。
目標・ 施策に 対する 評価	平成25年度から通学路の安全対策を集中的に取り組むために学校保健課の事業として、グリーンベルト設置による安全対策を実施しており、児童・生徒の登下校時の安全確保につながっています。毎年多くの要望箇所があるため、全てに改善対策を実施することは難しいですが、関係機関とも連携しながら、危険箇所の改善を進めました。

第三者評価者からの意見・提言

VI 質の高い学校教育のための環境の充実

〔施策1〕 2022年1月に文部科学省が公表した「教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査結果」を見ると、これまで教員がいかにも多くの業務を担い、負担軽減がまだ不十分であるかが分かる。統合型校務支援システムなどICTを活用した校務効率化（学校DX）の推進、スクール・サポート・スタッフの活用増強、教職員の負担増にならないような研修の実施などに取り組んでいただき、持続可能なかたちで教職員の資質・能力の向上を図る取組を要望したい。

〔施策2〕 〔施策3〕 通学区域検討事業や学校施設更新計画策定事業は、保護者や地域のニーズを十分に反映しつつ推進する必要がある。コミュニティ・スクールの充実も望みたい。学習教材や学校図書館図書の整備・充実も重要である。

〔施策4〕 児童生徒を見守る活動に参加されている市民の方々には頭が下がる思いである。学校、保護者、地域の連携による、児童生徒の安全確保活動の継続・推進をお願いしたい。

●【事業40～43】は、評価指標の設定が適切かどうか再検討を要する。前例どおり、おざなりな状況が垣間見られる。●事業40【教職員健康管理事業】の「高ストレス者に占める医師の面接利用率」の令和5年度目標値7.69が、令和4年度実績の約5倍になっているのはなぜか。そもそも高ストレス者とは、何か。把握の仕方・実態が不明で市民目線には意味が分からない。目標が、教職員等の健康保持ならば、評価指標を見ることでその実態がわかる客観的な数値の設定が必至。●第3期上尾市教育振興基本計画の当該目標指数として掲げられている「登下校時の交通事故件数」を評価指標とした事業が見当たらないのは、理解できない。●当該目標全般に亘って、教育委員会事務局一丸となって、今一度事業評価制度の基礎から理解し直す、研修や学習の実施が不可欠である。

教職員の健康管理は適切である。ストレスチェックはよい。養護教諭、校医との連携強化を推進したい。指導要録と通知表の連動は効果的である。スクールサポートは効果的である。退職教員へ依頼、大学と連携し専門的・的確な人材を確保したい。

学校の通学距離は2.5km未満が妥当。学校統合は、保護者・地域の声や通学区の検討が必須である。目前にある学校に通学せず、遠方に通学の児童、生徒もいる。学区の選択制、範囲を広げた学区編成もある。効果を期待したい。

コミュニティスクールは、効果、検証が必要である。地域コーディネーター不足。地域役員の継続課題、学校応援団、学校開放委員会、PTA等の意思疎通、連携が必要であるが、十分とは言えない。更なる制度の意義、目的の浸透を図りたい。学校図書館は本を廃棄処分すると一気に総数が減る。学校間連携、図書移動交換等も必要。図書紹介は、読み聞かせのボランティアや図書室の案内により充実させたい。登校下校の安全確保等、学校、PTA、教育委員会、警察との連携はよい。しかし、昨今、痴漢や不審者に遭遇する児童・生徒がいる。地域連携、青パトの充実、有効性を再検討したい。子ども目線の調査アンケートも必要である。

事業名	放課後子供教室運営事業	51
-----	-------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅶ 家庭・地域の教育力の向上	担当	生涯学習課
施策	施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	公民館を会場に、放課後の子供の安心安全な居場所を確保し、公民館を活動場所とする地域の大人たちの参画を得て、様々な学習や体験活動等の取組を実施することにより、大人や子供同士の交流を育み、地域社会の中での生涯学習環境づくりを推進することを目的としています。
主な対象(数)	原市公民館放課後子供教室 原市小学校児童(29人) 大石公民館放課後子供教室 大石小学校児童(28人)

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	1,568 千円	2,513 千円	2,913 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
実施回数	42	112	112	2教室の合計
延べ参加人数	358	1,492	1400	2教室の合計

●当該事業の評価

成果	公民館で活動するサークルや地域で活動する指導者、まなびすと指導者を講師とした教室を実施し、工作や科学、スポーツ等の多彩な体験活動を行うことができました。
課題	コーディネーターやサポーターについては、小学校全学年を対象にしていることから、学年による学力や集中力、体格の差や集団行動に差があることを理解していることが必要であり、小学生の扱いにたけた人材が望ましいため、人材の継続的な確保が難しい状況が続いています。
方今後性の	今後も地域の力を借りながら、公民館を拠点として子どもたちの安心安全な居場所づくりに取り組んでいきます。
目標・施策に 対する評価	公民館で活動するサークルや上尾市まなびすと指導者を講師として活用することで、学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進に繋がる事業を実施することができました。

事業名	学校家庭連携推進事業	52
-----	------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅶ 家庭・地域の教育力の向上	担当	指導課
施策	施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	保護者や地域の方がボランティアとして、学習支援、環境整備、安心・安全の確保などの活動を通して、学校を支援し、学校・家庭・地域社会が一体となって子供の育成に取り組むことを推進しています。
主な対象(数)	全市立小・中学校

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	351 千円	350 千円	356 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
学校応援団の延べ活動日数	6253日	7876日	13522回	学校での教育活動を支援する保護者、地域の方によるボランティアの活動組織による活動日数

●当該事業の評価

成果	学習支援、環境整備、安心・安全の確保などの活動を通して、学校・家庭・地域社会が一体となって子供の育成に取り組むことを推進することができました。
課題	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、活動を制限した学校が多くありました。感染対策と活動のバランスを考慮した取組を推進していきます。
方今後性の	学校・家庭・地域社会が一体となって子供の育成に取り組んでいくため、保護者や地域の方に学校教育に携わっていただきながら各学校の学校応援団の活動を充実させていきます。
目標・施策に 対する評価	上尾市教育振興基本計画「目標Ⅶ 家庭・地域の教育力の向上」に位置付けられており、学校応援団の活動を通して、保護者や地域の方に教育に携わっていただきながら学校・家庭・地域社会が一体となって子供の育成に取り組むことを推進することができました。

事業名	家庭教育推進事業	53
-----	----------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅶ 家庭・地域の教育力の向上	担当	生涯学習課
施策	施策2 家庭教育の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	家庭教育の重要性を理解し家庭教育の充実を図るため、市内幼稚園や認定こども園の保護者が実施する家庭教育に関する事業を支援します。また、上尾市PTA連合会と連携して行っている家庭教育講演会を開催することで、家庭教育力の向上を図ります。
主な対象(数)	市内幼稚園及び認定こども園の保護者会

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	72 千円	90 千円	210 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
家庭教育推進事業補助金交付団体数	2	3	4	家庭教育推進事業補助金を交付団体数
家庭教育講演会参加者数	中止	動画配信	動画配信	家庭教育講演会の参加者数

●当該事業の評価

成果	家庭教育講演会については、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況であったため、動画配信での開催となりました。 家庭教育推進事業補助金は、市内幼稚園等の保護者会3団体に交付しました。
課題	家庭教育講演会については、上尾市PTA連合会と連携して開催していることから、PTA連合会と共に今後の開催方法を検討していく必要があります。 併せて、家庭生活を見つめ直し、家庭教育の大切さを考えるきっかけとして開催するため、講演会の趣旨に沿った講師の選定について検討する必要があります。
方向性の	少子化や核家族化といった社会環境や家庭環境が著しく変化している中で、より多くの親が家庭教育について考える機会の提供や家庭の教育力の向上のため、今後も講演会を通して家庭教育支援の情報提供を継続していきます。 また、市内私立幼稚園等の保護者会が家庭教育に関する講演会や講座等を実施することにより、家庭教育力の向上を図ります。
目標・施策に対する評価	家庭教育推進事業補助金を活用して「子どもの育ちを考える」「ママのためのアンガーマネジメント講座」といった幼児教育についての講座が開催され、受講者は世界の中の日本の子ども達について考えたり、子育てに関する視野が広がったりしたといった報告があり、家庭・地域の教育力の向上に寄与していると考えます。

事業名	幼稚園・保育所と小学校の連携推進事業	54
-----	--------------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅶ 家庭・地域の教育力の向上	担当	指導課
施策	施策3 幼児教育の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	幼児教育の推進を図るため、上尾市幼児教育推進協議会を設置するとともに、幼児期から児童期への滑らかな接続・移行のため、幼・保・小連携合同研修会を実施します。
主な対象(数)	市立小学校教諭 市立保育所職員 市内私立幼稚園・認定こども園・私立保育園職員

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	88 千円	457 千円	244 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
上尾市幼・保・小連携合同研修会	年2回	年1回	年2回	
上尾市幼児教育推進協議会	年3回	年3回	年3回	

●当該事業の評価

成果	研修を通じて、幼・保・小それぞれの取組への理解を深めることで、幼児期から児童期への滑らかな接続につなげることができました。 また、幼児教育推進協議会において、発達支援を必要とする幼児に係る現状と課題について把握し、答申書にまとめることができました。
課題	今後は、行事の交流や幼児に関する情報交換だけでなく、資質・能力をつなぐカリキュラムの編成や実施を目指し、内容を見直していくことが課題です。
方向性の	各園や各校でそれぞれが作成していたアプローチプログラム及びスタートカリキュラムを一体的なものとして活用していくことができるように、内容について協議を行い、見直していきます。 また、幼児教育推進協議会において、架け橋期カリキュラムモデルの作成に向け、幼保小の接続に係る課題解決のための方策・手立てについて協議していきます。
目標・施策に 対する評価	幼・保・小の合同研修会における実践発表や協議を通し、互いの活動への理解や小学校への滑らかな接続を図ることができました。 また、幼児教育推進協議会では、幼児施設への視察を行ったことで、具体的な子供の姿から、現状と課題を把握することができました。

第三者評価者からの意見・提言

目標Ⅶ 家庭・地域の教育力の向上

〔施策1〕 放課後子供教室は子供たちの成長にとって有益な取組だが、小学校が22校あるのに市立公民館は6館しかなく、現在の実施は2館のみであり、特定の小学校の児童だけが対象となってしまうのは残念である。コーディネーター、サポーターや講師の確保は大変だと思うが、小学校の教室や校庭などを活用して、より多くの小学校の児童を対象にすることも検討していただきたい。

学校応援団コーディネーターを中心に学校応援団が、全小・中学校において機能を発揮している意義は大きい。コロナ禍以前の活動を回復した上で、「地域学校協働活動」の視点からコミュニティ・スクールとの一体的推進を期待したい。

〔施策2〕 家庭教育講演会については、対面実施となっても、参加できなかった保護者への後日の録画配信も検討いただきたい。

〔施策3〕 幼稚園・保育所と小学校の連携は重要であり、資質・能力をつなぐカリキュラムの編成・実施を期待したい。

●事業51【放課後子供教室運営事業】において、当該年度は評価指標の2つの目標共に、実績が目標を上回っている点は、評価に値する。但し、令和5年度の参加人員目標が当該年度実績から減じているのが不可解。●事業52【学校家庭連携推進事業】事業評価の項目は、前年度と同じなのは、理解できない。成果、課題、目標・施策に対する評価（自己評価）の関係性においても、自己評価の記載は、理解しがたい。今後の方向性も、昨年度同様の先送り論理である。●重点事業 事業54【幼稚園・保育所と小学校の連携推進事業】は、発達支援を必要とする幼児に係る現状と課題について、教育委員会に答申できたことは大きな成果である。但し、事業評価欄の自己評価及び今後の方向性は、前年度と全く同じ文言であることは、市民感覚から言えば、理解しがたい。

公民館事業も再開、サークル活動や各種教室も充実、公民館は学校と違う体験ができる。有効に活用したい。学校が、公民館を活用し学習することは有効であり推進したい。放課後子ども教室コーディネーターやサポーターの資質は大切である。よき人材を望む。

学校、家庭、地域が一体となり子どもの育成には地域差があり一律にはいかない。学校応援団等は有効であるが、活動内容や応援団の数、人数は十分とは言えないこともある。学校のカリキュラムへ位置づけ計画的に実践できるように努力したい。家庭教育学級は、テーマを検討、いじめ、不登校、性教育、子育て、人権等ある。他校、過去の実践も参考になるのではないか。幼、保、小の活動計画とカリキュラム内容の検討を深めたい。各ブロック、幼、保、小職員の検討会を計画的に進め、早急に実現したい。学校、家庭、地域連携を深め、地域の教育力を生かした活動に取組むためには、コーディネーターが必要であり、人材発掘、地域住民への啓発周知活動等を検討すべきです。

事業名	公民館講座事業	55
-----	---------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	担当	生涯学習課
施策	施策1 学び合い、共に支える社会の実現		

●事業の概要

主な目的・内容	市民の新たな学びや地域社会に興味・関心を持つきっかけとして、子育てに関する内容から、趣味や教養、健康づくりに関する内容まで、幅広い分野の学習機会の提供を行います。 また、小・中学生を対象として各種体験や多様な学びを提供する土曜日の教育支援事業を実施します。
主な対象(数)	

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	1,816 千円	2,345 千円	3,249 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
公民館講座数	94	126	120	6公民館の合計
公民館講座延べ参加人数	2,777	4,119	3600	6公民館の合計
土曜日等の教育支援事業延べ参加人数	332	297	300	6公民館の合計

●当該事業の評価

成果	公民館講座事業では、「スポーツ健康都市宣言記念講座」の実施や企業や学校と協働して行った講座等、多種多様な講座を実施することができました。 なお、評価指標「土曜日等の教育支援事業延べ参加人数」が令和4年度は令和3年度より減少したのは、令和3年度の1講座に募集定員を大幅に超える応募があったことから、実施回数などを増やして対応したことから参加人数が大幅に増加したためです。
課題	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、1講座あたりの定員を通常より少なく設定したため、講座に参加できない人が多くなってしまいう講座もありました。今後、定員を少なく設定する場合には、オンライン講座の実施や同一講座を複数回実施する等の検討が必要です。
方向性の	今後もより多くの市民に参加してもらえるよう、社会の変化や市民の学習要望に応じた事業を企画していきます。
目標・施策に 対する評価	各公民館で感染対策を行いながら、工夫して講座を実施し、多種多様な学習機会の提供をすることができました。定員人数を超えて応募があった講座については、追加講座を実施したり、定員を増員するなど、より多くの方に学びを提供することができました。

事業名	人権教育集会所運営事業	56
-----	-------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	担当	生涯学習課
施策	施策1 学び合い、共に支える社会の実現		

●事業の概要

主な目的・内容	原市集会所・畔吉集会所において、集会所利用者や地域の人々を対象に、人権問題指導者研修会を開催し、同和問題・障害者の人権・ジェンダーなど人権に関する研修を実施します。 また、各種集会所講座・教室を開催します。
主な対象(数)	集会所利用者等

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	684 千円	669 千円	1,278 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
人権問題指導者研修会参加者数	91	141	300	2集会所の合計
各集会所講座・教室参加者数	601	460	700	2集会所の合計

●当該事業の評価

成果	人権問題指導者研修会については、新型コロナウイルス感染拡大の状況の中、参加人数を制限するとともに、「同和問題」と「拉致問題」の2つのテーマを、対面形式と講座を録画した動画を放映する形式の2種類の方法で実施しました。 各集会所講座・教室については、原市集会所耐震補強工事により講座の開催数が例年と比べて減少したものの、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら計画どおり開催しました。
課題	人権教育集会所は、人権教育の拠点施設であるため、人権問題指導者研修会では、多様化する様々な人権課題について取り上げる必要があります。 また、集会所の利用者同士の交流を図り、互いを尊重し合う人権意識の向上を目的として、多くの参加者が集う内容の講座・教室を開催する必要があります。
今後の方向性	同和問題をはじめとする様々な人権問題についての理解と認識を深め、人権意識の高揚を図るとともに、人権問題を自身の問題として捉え「偏見を持たない、差別をしない、差別をさせない」実践力を身に着け、地域の核となる人材育成を行うため、今後も継続して人権問題指導者研修会及び各集会所講座・教室を開催・実施していきます。
目標・施策に対する評価	人権問題指導者研修会は、利用団体から地域に関わる様々な団体まで幅広く参加しており、人権問題に関する新たな知識を得たり、さらに深められたりしたという声があります。 また、各集会所講座・教室は、小学生から高齢者まで幅広い世代を対象に行っており、利用者同士で教えあったりするなど交流の場にもなっていることから、「生涯にわたる学びの推進」を実施することができていると考えます。

事業名	人権教育推進事業（生涯学習課）	57
-----	-----------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	担当	生涯学習課
施策	施策1 学び合い、共に支える社会の実現		

●事業の概要

主な目的・内容	上尾市人権教育推進協議会や、職員を対象とした人権問題研修会を開催するほか、各種団体が開催する研修会・会議等へ参加します。また、子供の頃から人権感覚を育むことを目的に、市内小・中学校の児童・生徒を対象に人権標語コンクールを実施します。
主な対象(数)	市内の小・中学生等

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額（千円未満切捨）	630 千円	721 千円	1,001 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
教育委員会事務局職員人権問題研修会参加人数	51	60	60	
人権標語コンクール作品数	15590	15760	15800	

●当該事業の評価

成果	教育委員会事務局職員人権問題研修会では、同和問題について深い知識を持っている方を講師に迎え、職員の人権問題についての理解を深めることができました。また、全小・中学生を対象とした人権標語コンクールを実施し、子供の頃から人権感覚を育む機会を提供することができました。
課題	現代社会には様々な人権についての課題があり、それぞれについて人権感覚を育む必要があります。また人権標語コンクールについて、「標語」は五・七・五調を基本とする限られた文字数であることから、過去の作品と類似したものが作成されることが増えてきたため、募集の方法について検討する必要があります。
方向性の	多様な人権問題に取り組むためには人権感覚を磨く必要があります。教育委員会事務局職員の人権感覚を磨き育むため、今後も教育委員会事務局職員人権問題研修会は継続していきます。また人権標語コンクールも、人権について考えるきっかけづくりとなることから、募集の方法を検討していきます。
目標・施策に対する評価	人権標語コンクールは、小・中学生という若い頃から人権感覚を育むための事業であり、人権を意識して作成することで他者のことを考える良い機会となっていると考えます。このことから、目標「生涯にわたる学びの推進」に寄与していると考えます。

事業名	生涯学習指導者活動推進事業	58
-----	---------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	担当	生涯学習課
施策	施策2 生涯学習の「場」と「推進体制」の整		

●事業の概要

主な目的・内容	様々な経験や技術を持つ市民に、生涯学習の指導者として活躍する場を提供するため「上尾市まなびすと指導者バンク」に登録してもらい、その情報を情報誌やホームページで、指導者を必要としている人に提供します。 また、まなびすと指導者バンク活動推進会議に補助金の交付や「まなびすと市民講座」などの支援を実施します。
主な対象(数)	

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	116 千円	262 千円	322 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
上尾市まなびすと市民講座実施回数	29	18	20	
上尾市まなびすと市民講座延べ参加人数	370	400	450	
ちよつとだけ体験広場参加人数	—	100	100	

●当該事業の評価

成果	学校施設開放(特別教室)は、新型コロナウイルス感染症の影響で、貸し出しを中止していたことから、文化施設で「まなびすと市民講座」を実施しました。まなびすと指導者の活動機会を確保するとともに、市民に学びの場を提供することができました。また、活動機会の場を設けるため、公民館職員に対してまなびすと指導者の紹介事業を行いました。令和4年度末のまなびすと指導者バンク登録者は101人です。
課題	新型コロナウイルス感染症の影響により、「上尾市まなびすと市民講座」の会場であった学校施設開放(特別教室)が使用できないことから、上尾市まなびすと指導者の活動の機会が以前より減少しました。
方向性の	学校施設開放(特別教室)の使用が可能になった学校について遅滞なく案内を行い、「上尾市まなびすと市民講座」の講師として活動する機会を提供します。また、「ボランティア指導者養成講座」や「まなびすと登録者研修」を実施することにより、講師の養成や資質の向上を図ります。
対する評価に	新型コロナウイルス感染症の影響で、活動機会の場の提供や推進体制の整備を進めることは難しい状況でしたが、文化施設を会場とするなどの工夫を行い、まなびすと指導者の活動機会の提供及び市民への学習機会の提供を行うことができました。

事業名	学校施設開放(生涯学習)事業	59
-----	----------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	担当	生涯学習課
施策	施策2 生涯学習の「場」と「推進体制」の整		

●事業の概要

主な目的・内容	市民の生涯学習の場の確保を図るため、市内の小中学校(平方東・芝川・富士見)の特別教室を学校教育に支障の生じない範囲において、市内で活動する生涯学習団体に対して開放します。
主な対象(数)	市内で活動する生涯学習団体

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	109 千円	162 千円	3,232 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
利用団体登録数	64団体	43団体	100団体	利用団体の登録数
利用件数	0件	0件	400件	利用された件数

●当該事業の評価

成果	学校施設開放(生涯学習)事業は日常的に小学生が使用する特別教室の一部を一般市民に開放する事業であることから、小中学校の運営に影響を与えないために令和4年度は事業を中止しました。
課題	新型コロナウイルス感染症の位置付けが引き下げられたことから、事業(開放)を再開するために準備を進めています。
方向性の今後の	学校は、児童生徒が生涯学習の基礎を築く場であるとともに、一般市民の生涯学習の拠点としても重要になりつつあります。学校の状況を鑑みながら、学校施設の開放を推進していきます。
目標・施策に対する評価	特別教室の開放は、公民館や集会所にはない音楽室や理科室を利用することができ、市民の多様な学習ニーズや生涯学習の支援といった観点において有効です。このことから、目標「生涯にわたる学びの推進」に寄与していると考えます。

事業名	大学等との連携による生涯学習推進事業	60
-----	--------------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	担当	生涯学習課
施策	施策3 未来へ向けた持続可能な生涯学		

●事業の概要

主な目的・内容	市民に、より専門的で魅力ある新しい学習機会を提供するために大学等の教育機関や民間企業との連携を図ります。
主な対象(数)	・聖学院大学公開講座:18歳以上の人 ・子ども大学:上尾市、伊奈町、桶川市に住む5・6年生

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	100 千円	191 千円	246 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
子ども大学あげお・いな・おけがわ応募者数	70	46	70	企画(講義内容)に魅力があるかどうかどれくらい応募者が集まるかを指標とする。
あげお子ども大学応募者数	0	44	50	同上。

●当該事業の評価

成果	聖学院大学公開講座については、前年度に引き続きオンラインの形となりましたが、2講座を実施することができました。子ども大学あげお・いな・おけがわも、新型コロナウイルス感染症拡大対策のため、昨年度と同様に参加者数を平成31年度以前の60人から40人に減らし、実施することができました。あげお子ども大学は3年ぶりの実施となり、定員30人のところ44人の応募がありました。
課題	子ども大学あげお・いな・おけがわは、前年同様に新型コロナウイルス感染症の影響から定員を減らしていましたが、応募人数が大幅に減少しました。子どもたちに魅力があり、学習意欲を刺激するような学習内容の検討が必要です。
方向性の	大学や企業などと連携することで、それぞれが行っている高度な学びや研究・開発などについて学ぶ機会を提供するため、それぞれの持つ特徴・特色のある講座などを実施していきます。
対する評価に	市民の専門的な知識や学びをより深め、大学等の機関との学習協力を構築し、市民の知的好奇心を高める事業の実施を行うことができました。

事業名	成人式事業	61
-----	-------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	担当	生涯学習課
施策	施策3 未来へ向けた持続可能な生涯学		

●事業の概要

主な目的・内容	二十歳を迎えた人の前途を祝い、社会人としての自覚を持ち、「ふるさと上尾」の意識を高められるよう「二十歳のつどい」を実施します。
主な対象(数)	平成14年4月2日から平成15年4月1日の間に出生した市内に在住の人(令和3年11月1日時点)、及び市外在住で、式典当日までに上尾市成人式の参加希望のあった人。男性1,189人、女性1,106人、計2,295人。

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	1,662 千円	1,710 千円	2,029 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
式典出席者数	1591	1,616	1,474	
式典出席率	67.60%	70.40%	71.00%	

●当該事業の評価

成果	新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、令和3年度に引き続き式典回数を3回に変更し、小ホールをサテライト会場として、さらにオンライン配信を行いました。対象者2,295人のうち1,616人が出席し、出席率は70.4%となり、令和3年度より約3%増えました。
課題	昨年度と同様に式典を3回に分けたこと、会場の数を増やしたことで、登壇する方々や当日の事務従事を行う職員の負担が増大しました。
方今後性の	新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことから、コロナ禍以前と同様に式典回数を2回として開催する予定です。
目標・施策に対する評価	式典を実施したことで、二十歳を迎えた人が社会人としての自覚を持つことのできる機会を設けることができました。

事業名	図書館運営事業	62
-----	---------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	担当	図書館
施策	施策4 図書館運営の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	多様化・専門化する市民の資料要求に応えるため、図書館システムのネットワークにより蔵書管理や利用者管理を行うとともに、本館・分館の運営業務(カウンター業務)、巡回配送業務を委託し、効率的・効果的な図書館サービスを提供しています。
主な対象(数)	図書館本館1館、分館(室)8館、利用者、受託事業者

●事業費の推移

年 度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金 額 (千円未満切捨)	187,926 千円	224,173 千円	181,662 千円

●評価指標

指 標 名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
利用者数(人)	376,412	378,021	380,000	図書館資料を借りた人の数
貸出資料数(件)	1,150,474	1,136,241	1,137,000	図書館資料の貸出件数(CD・DVD含む)

●当該事業の評価

成果	【評価指標】コロナを取り巻く社会的背景からか図書資料の貸出しを利用した人数は微増に留まり、また、図書資料の貸出し数においては減少の結果となりました。 【その他】本館、分館の図書の巡回配送の業務委託について、初めて長期継続契約(3年間)を締結することで安定したサービスの提供とともに委託料を削減することができました。
課題	今後、コロナ禍を経てアフターコロナ(ウィズコロナ)としての図書館運営を切り開く必要があると考えます。また、一定の利用者だけでなく広く市民に図書館を利用してもらうために、図書資料の貸出しに留まらず、市民の求める多様なサービスの把握に努める必要があると考えます。
方 向 後 性 の	本館・分館(室)のカウンター業務委託について、更なるサービスの充実に向けた仕様による契約の更新を進めます。また、現行の図書館システムについて、次期更新を念頭に利用者の利便性の向上が図れるようなシステムの検討を開始します。
目 標 ・ 施 策 に 対 する 評 価	地域の情報拠点として重要な役割を持つ図書館の継続的な開館は必要最低限のことであり、これについてはコロナ禍においても、柔軟にサービスを提供することで市民の生涯学習の機会と場所の確保につなげられたものと考えます。

事業名	図書館施設管理事業	63
-----	-----------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	担当	図書館
施策	施策4 図書館運営の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	図書館本館及び分館・公民館図書室の施設を管理します。
主な対象(数)	図書館本館1館、分館(室)8館、上平広場、利用者

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	44,679 千円	36,974 千円	36,943 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
施設・設備の改修箇所(件)	19(内修繕15)	9(内修繕9)	10	施設・設備を改修した工事等の件数
LED切り替え箇所数(箇所)	277	306	336	蛍光灯のLEDへの切替箇所数(累計)

●当該事業の評価

成果	昨年度拡充した学習及び閲覧スペースの床材を現状の凸凹材からフラットな素材に張り替えることでよりスマートな使い心地にすることができました。また、本館・分館の照明器具のLED工事を行うことで適切な照度の確保と省エネに貢献しました。(使用電力量:260,023kw/h【R3】→246,532kw/h【R4】)また、課題であった上平広場の管理事業については、令和4年度中にみどり公園課への所管換えの事務手続きを完遂しました。
課題	本館をはじめとした施設・設備の老朽化は顕著であり、抜本的な対策が必要です。
方向性の	引き続き、既存の施設の適切な維持管理の実行と並行し、市の公共施設マネジメントとの整合性を図りながら、施設の改修や図書館網の整理等について取り組んでいきます。また、本館については特に老朽化も顕著であることから、更新の方向性について検討を進めており、今年度は更新方針の策定に向けた取り組みを行う予定です。
目標・施策に対する評価	経年劣化している施設の改修、修繕により利用者の安全を確保することができました。また、本館においては学習及び閲覧スペースの改修により、来館者数の増加(約15,000人増)に繋げることができました。

事業名	図書館資料整備事業	64
-----	-----------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	担当	図書館
施策	施策4 図書館運営の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	図書館サービスの根幹である図書館資料(図書・雑誌・新聞・視聴覚資料・電子書籍・オンラインデータベースなど)の整備をすすめます。
主な対象(数)	市民全般

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	31,611 千円	35,293 千円	35,876 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
青少年向け電子書籍の収集	12.0%	10.6%	10.0%	電子書籍全体の1割を収集する。

●当該事業の評価

成果	蔵書冊数573,343冊(前年度比11,006冊 2.0%増)、雑誌及び視聴覚資料を含む資料総数601,970点(前年度比11,515冊 2.0%増)に対し、貸出点数は、1,136,241点(前年度比-14,233点 1.2%減)でした。 電子図書館サービスについては、新規利用者は526名、タイトル数32,405点に対し、貸出数は7,596点でした。
課題	利用者モニタリングでは「蔵書数の増加・種類の充実」が最も要望が高い状況です。限られた予算の中、利用者にとって魅力的な書架を維持するため、各館の規模を踏まえつつ、利用者の多様なニーズを見極めた蔵書構築を行う必要があります。 また、電子図書館サービスについて、利用者のニーズを的確に捉えたタイトルの拡充に加え、継続的なPRが重要です。
方今後性の	分館(室)の蔵書見直しを定期的を実施し、資料を入れ替えるなど、規模に見合った適切な資料管理を行います。また、利用者モニタリング結果に基づき、利用者のニーズを捉えた資料収集を進めます。 また、電子書籍についても、利用者モニタリング結果を踏まえ、魅力ある資料収集を進めるとともに、電子図書館活用促進を図ります。
目標・施策に 対する評価	市民の生涯学習を支え、知る権利を保障する施設として、資料の収集や提供サービスを適切に実施しました。令和3年9月からスタートした非来館型サービスである電子図書館サービスについては、今後利用者のニーズを捉えたタイトルを収集するとともに、継続的なPRを実施する必要があります。

事業名	子どもの読書活動支援センター運営事業	65
-----	--------------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	担当	図書館
施策	施策4 図書館運営の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	あげお子ども読書プランに基づき、家庭・地域・学校と図書館の連携を図り、子供の読書に関する情報の収集・提供、講師派遣、講演会・講座の開催、読書ボランティアの育成、子供向け読書イベントの開催・学校支援など、子供の読書活動を推進します。
主な対象(数)	市内の家庭・学校・地域

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	958 千円	1,812 千円	1,923 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
「学校の授業をきっかけに読書が広がる本のセット」利用学校数(延べ)	4	15	30	学校の授業開始にあわせた関連本のセットを、希望校に配送する。その利用学校数

●当該事業の評価

成果	「スイミー」・「ごんぎつね」・「せんねんまんねん」の関連本を各6セット作成。各セットの利用希望校から抽選で15校に利用してもらい、あわせて図書館にも展示しました。 ①2年生用「スイミー」 希望=15校 当選 5校 ②4年生用「ごんぎつね」 希望=14校 当選 5校 ③6年生用「せんねんまんねん」 希望=13校 当選 5校
課題	学校の授業単元をキーワードとして、児童が読んで楽しく、興味や関心を広げ、個性や能力を伸ばす本を選定したが、一部の学校には意図が伝わりにくく、教員が授業で使う本(同じ作家の本など)を選定してほしいとの声もありました。授業で使う本は「団体貸出セット」で対応しており、それぞれの選定意図の違いを改めて周知する必要があります。
方今向後の性の	利用校のアンケート結果から、「満足」との声が多かったため、令和5年度には以下のセットを各6セット作成し、同事業の継続を予定しています。 <作成予定セット> ①1年生用「たぬきの糸車」 各6セット ②4年生用「プラタナスの木」 各6セット ③5・6年生用「古典の世界」 各6セット
目標・施策に対する評価	子どもの読書活動支援センターは、家庭・学校・地域の連携課題に応じて、毎年新たな取り組みを実施しています。「学校の授業をきっかけに読書が広がる本のセット」事業は、子供たちの興味に繋がるよう、授業とそれぞれの本をつなげる連想マップを作成し、学校に配布するなどの工夫をしています。 本市の状況にあわせた事業展開により、学校との連携強化に繋がり、生涯にわたる学びの推進に大きく寄与しているものと考えます。

事業名	視聴覚ライブラリー事業	66
-----	-------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	担当	図書館
施策	施策4 図書館運営の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	子どもや大人向けの映画会を開催します。視聴覚資料や教材を収集するとともに、視聴覚活動や映画会を行う市民団体に視聴覚教材・教具の貸出を行い、活動を支援します。
主な対象(数)	市民全般

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	327 千円	353 千円	342 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
視聴覚教材・教具利用団体数	26	25	26	視聴覚活動や映画会を行う市民団体支援

●当該事業の評価

成果	プロジェクターやスクリーン等視聴覚教材の等の総貸出点数は、57点でした。また、映画会は回数や人数を制限しながら再開しました。
課題	機材の劣化や部品供給の問題から、従来のような事業展開は難しくなりつつあります。今後は、よりニーズを見極めてサービス展開を考える必要があります。
方今後の向性の	既存の機材やコンテンツを生かした取り組みを継続していきます。また、状況を見ながら映画会の従来通りの再開を模索していきます。
目標・施策に対する評価に	団体貸出を通じて、多くの市民に視聴覚サービスの効果が波及していると考えられます。

事業名	ブックスタート事業	67
-----	-----------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	担当	図書館
施策	施策4 図書館運営の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	4か月児健康診査時に、赤ちゃんと保護者が絵本を通してゆっくりと向き合い、心触れ合うひとときを過ごすきっかけづくりとして、絵本の読み聞かせの実施と絵本の配布を行います。
主な対象(数)	市内在住の4か月児とその保護者

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	887 千円	2,086 千円	2,537 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
ブックスタート実施人数(絵本配布数)	1,463	1,473	1,473	検診受診者に配布する絵本と赤ちゃん向け図書館イベント等のチラシの配布数

●当該事業の評価

成果	実施回数26回。4か月児健康診査対象者1519人に対し、1,473人に配布(配布率97%)という結果でした。コロナ禍により読み聞かせは中止し、絵本の配布のみ実施となりましたが、絵本を2冊(前年度は1冊)に戻し、配布することができました。
課題	子どもの読書支援である一方、これを支える読み聞かせボランティアの活躍の場でもあることから、この場を確保すべく、感染症拡大防止との両立を図る必要があります。
方今向後性の	子どもの読書のきっかけづくりとして有効であるため、事業を継続していくとともに、感染症等の十分な対策により読み聞かせを再開していきます。
対する評価に	絵本の配布や読み聞かせを通じて、保護者やボランティアを含めた家庭・地域への効果的な支援に繋がっています。

事業名	セカンドブック事業	68
-----	-----------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進	担当	図書館
施策	施策4 図書館運営の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	市内小学1年生を対象に、絵本の読み聞かせと図書カード入れ付きの読書パスポートを配布し、家庭・学校・地域・図書館が連携して、読書好きな子供たちを育成します。
主な対象(数)	市内在住の小学生

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	1,732 千円	2,911 千円	60 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
読書パスポートコンクール参加校数	22	22	22	学校の協力により、年間1回実施し、優秀者を表彰する。その参加校数

●当該事業の評価

成果	読書パスポートの配布は、1,768人でした。実際に小学校に出向き、読書パスポートの説明と配布、絵本の読み聞かせを行うことができました。 また、市内全小学校(22校)で読書パスポートコンクールを開催しました。
課題	読書パスポートの利用を如何に児童に伝えていか、やり方や学校との協力体制を再検討していく必要があります。
方今 向後 性の	単に読書パスポートの配布を行うだけではなく、児童の読書週間や本への興味を高めるため、引き続き読書パスポートを活用していきます。 具体的には、本に親しむ機会の提供として、児童イベントを継続して企画していきます。
目 標 ・ 施 策 に 対 す る 評 価	子供たちが自発的に読書に親しむ習慣を身に着けることに繋がる事業であり、将来的な学習活動への支援になるものと考えます。

第三者評価者からの意見・提言

目標Ⅷ 生涯にわたる学びの推進

生涯学習のさまざまな企画や取組が、コロナ禍の影響で制約を受け続けていることは残念である。コロナ禍前の水準を早く取り戻すことをお願いしたい。

〔施策1〕日本は人権関係の指標において先進各国と比べて見劣りするものが多く、世界経済フォーラムの2022年報告書におけるジェンダーギャップ指数（GGI）では、政治分野の男女格差は146カ国中139位で世界ワースト10に入っている。人権問題に関しては行政の責任が問われる。さまざまな人権問題が生じていることを真剣に受け止め、行政が学校・家庭・地域と連携・協力して人権教育を推進していくことを求めたい。

〔施策2〕〔施策3〕生涯学習においては、変化の激しい社会で仕事をするための学びという切実なニーズが高まってきている。そうした基本認識のもとに、学校施設の積極的開放や、大学・民間企業等と連携した生涯学習推進事業などの進展に期待したい。

〔施策4〕「Society5.0」時代の市民図書館として、電子書籍やデジタルコンテンツの提供、電子機器の貸出や利用支援など電子情報環境への対応に力を入れていただきたい。

●重点事業【事業55・56・63・65】は、事業の円滑な実施の上に、改善を試みた状況が如実に理解できる事業評価である。これぞ、PDCAサイクルの御手本。●事業57【人権教育推進事業】は、人権問題研修会への参加は、会計年度採用職員をも含めて、全員・100%が最低限の目標であろう。評価指標の設定の改善が望まれる。●重点事業 事業63【図書館施設管理事業】の当該評価の課題は、現場の実態感のある整理であるが、課題解決は管理監督者のリーダーシップ如何であることの認識の共有が不可欠。●重点事業 事業64【図書館資料整備事業】は、普段に利用者モニタリングを行っていることは評価できる。但し、その結果を評価指標等のエビデンスとして提示することで客観化を図られたい。●第3期上尾市教育振興基本計画に掲げてある3つの指標が、当該年度のどの事業にも使われてないのは、不自然。市民には分かりづらい。●事業【67・68】は、評価指標に今少し工夫が必要と考えられるが、将来への人材育成・文化度の向上に不可欠。更なる事業展開への知恵を期待したい。

公民館の人気講座は選外となると不参加、場を確保できるよう工夫したい。人権教育集会運営事業は、同和、拉致や人権問題等の指導者研修会等は成果です。今後、地域の核となる人材を育成し事業のマンネリ化を避けたい。人権標語コンクールは成果である。人権作文もあるのではないか。教育委員会、人権教育推進委員会、人権擁護委員会等との横断的な連携も必要であり、啓発、普及を進めたい。

指導者バンクを学校教育に取り込み活用させたい。学校施設の開放は、校庭の地域ラジオ体操開放、音楽室、家庭科室、理科室の活用等、児童生徒と一緒に活動、学習もありうる。成人式は、一生に一度の価値ある式であり人生の意義伝えるよい機会である。図書館利用は地域の拠点として活用推進したい。自治会の広報も必要。司書教諭の活用、視聴覚活用、映画も有効である。読書が広げる本セットは継続を。赤ちゃんと保護者が向き合うブックスタート事業、セカンドブック事業もよい。読書パスポートも継続し充実させてください。

事業名	美術展覧会事業	69
-----	---------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅸ 文化芸術の振興	担当	生涯学習課
施策	施策1 文化芸術の振興		

●事業の概要

主な目的・内容	広く市民の美術活動の普及を図り、豊かな人間性を養い、市民文化の向上に寄与することを目的として、上尾市美術展覧会を開催します。
主な対象(数)	出品者は15歳以上で上尾市内に在住、在勤、在学、または上尾市内に事務所を持つ美術団体に所属する人。

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	0 千円	1,421 千円	1,659 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
作品出品点数	—	366	384	6部門の合計作品出品点数
入場者数	—	1,740	1,800	2会場の合計入場者数

●当該事業の評価

成果	3年ぶりの開催となった第54回では、出品点数は前回(H31年度)の485点の75.5%でしたが、入場者数は前回より52人多い1,740人で、芸術活動の成果の発表の場と鑑賞の場を提供することができました。また、運営費用について、支出内容の見直しを行いました。
課題	出品者の高齢化や新型コロナの影響により、出品数が減少傾向にあります。また、運営を担う美術家協会会員の高齢化で会場設営が困難になり、令和4年度実施から全て業者委託としましたが、設営費を出品料から支出しており、出品料のみでは賄いきれない状況となっています。
方今向後性の	広く市民に公募する展覧会は市内で唯一であり、作品の発表の機会を提供し、市民の芸術活動を支援するため今後も継続していきます。
対する評価に	新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの実施となりましたが、市民の文化芸術の活動成果の発表や鑑賞する機会を提供することができました。

事業名	文化芸術振興事業	70
-----	----------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅸ 文化芸術の振興	担当	生涯学習課
施策	施策1 文化芸術の振興		

●事業の概要

主な目的・内容	文化活動の支援及び育成を目的として、上尾市文化団体連合会(文団連)への補助や文化芸術基金の管理を行います。
主な対象(数)	上尾市文化団体連合会

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	495 千円	751 千円	752 千円

●当該事業の評価

成果	令和4年度は、補助金を交付している上尾市文化団体連合会の事業である文化芸術祭が3年ぶりに開催されるなど、概ね事業が計画どおりに実施されました。 また、上尾市文化芸術振興基金の管理を行いました。
課題	上尾市文化団体連合会は、会員の高齢化や会員数の減少などにより、加盟団体が退会し、それに伴い協賛団体による事業費が減少するなど、課題を抱えています。今後は、県の補助金等の活用について積極的に情報提供を行う他、後進の育成についても支援を行っていく必要があります。
方今 向後 性の	今後も、市民が気軽に芸術鑑賞を楽しみ、また参加できる場を提供するため、上尾市文化団体連合会の活動をはじめ、市民の文化芸術活動の支援に取り組んでいきます。
目 標 ・ 施 策 に 対 する 評 価	新型コロナウイルス感染症の影響により、3年ぶりに「上尾市文化芸術祭」が開催され、日頃の研鑽の成果を発表する機会を得ることができました。 また、文化団体連合会加盟団体の自主的な活動が活性化するよう、発表会や大会などの支援を行いました。

事業名	市民音楽祭事業	71
-----	---------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅹ 文化芸術の振興	担当	生涯学習課
施策	施策1 文化芸術の振興		

●事業の概要

主な目的・内容	合唱祭、邦楽祭、吹奏楽・器楽祭の3部門で開催します。実行委員会形式で実施し、市内音楽活動団体の発表の場とするとともに、参加団体間の交流を図ります。また、広く市民に音楽鑑賞の場を提供します。
主な対象(数)	上尾市内に在住・在勤・在学の人で構成された団体

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	0 千円	529 千円	1,210 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
参加団体数	—	38	41	3部門の合計参加団体数
入場者数	—	1,853	1,900	3部門の合計入場者数

●当該事業の評価

成果	合唱祭と吹奏楽・器楽祭は上尾市文化センター、邦楽祭は上尾市コミュニティセンターで開催しました。音楽祭実行委員会を機に参加団体同士の交流が行われる等、それぞれの活動の活性化につながりました。
課題	新型コロナウイルスの影響で事業が2年間休止となり、その間に活動を休止または解散した団体があり、休止以前に比べ参加団体数が3部門ともに減少しました。
方向性の	市民の音楽グループの活動発表の場として定着しているため、今後も継続して実施していきます。令和4年度は感染拡大防止の観点から、全員合唱や合同演奏を中止しましたが、状況をみながら再開していきます。
目標・施策に対する評価	それぞれの部門で感染対策を講じながら、3年ぶりに事業を実施することができ、市民の文化芸術の活動成果の発表や鑑賞の場を提供することができました。

事業名	「上尾の摘田・畑作用具」保存活用事業	72
-----	--------------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅸ 文化芸術の振興	担当	生涯学習課
施策	施策2 文化財の保護		

●事業の概要

主な目的・内容	令和3年3月に国指定重要有形民俗文化財となった「上尾の摘田・畑作用具」について、その保存のため適切な管理を行うとともに、市民への公開や啓発を行うことで、文化財の普及を図ります。
主な対象(数)	摘田(405点)・畑作用具(345点) 合計750点

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	390 千円	170 千円	856 千円

●当該事業の評価

成果	文化財保存の取組として、資料の点検や清掃を行うことで、資料の保管環境の改善に取り組みました。市ギャラリーや自然学習館で文化財展を実施し、普及啓発に取り組んでいます。また、「上尾の摘田・畑作用具保存活用検討委員会」を開催し、今後の文化財の保存と活用の方向性について検討を行いました。
課題	上尾の摘田・畑作用具(全750点)を保管している「上尾市文化財資料室」は、文化財の保管環境としては課題があり、将来的な保存のあり方も検討していく必要があります。また、文化財を公開する機会が限られているため、市民へ周知・情報発信していく方法を工夫する必要があります。
方今 向後 性の	文化財資料室内の環境を改善しながら、適切に文化財の管理を継続しつつ、将来にわたる保存・活用について検討していきます。
目 標 ・ 施 策 に 対 する 評 価	個々の文化財資料に対する点検や清掃を実施し、文化財の保存に向けた取り組みを継続的に行っています。また、上尾の摘田・畑作用具保存活用検討委員会では、当該文化財の保存と活用を進める上で必要となる事項を審議しています。

事業名	文化財調査・保存事業	73
-----	------------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅸ 文化芸術の振興	担当	生涯学習課
施策	施策2 文化財の保護		

●事業の概要

主な目的・内容	市文化財保護条例に基づき、市内に所在する文化財のうち重要なものを市指定文化財等として指定し、その保存及び活用を図ります。また、これらの文化財を次世代へ継承するため、文化財の修理や維持管理に必要な経費を補助するとともに、無形民俗文化財保持団体を対象とした交付金を交付します。		
主な対象(数)	国指定重要文化財 1件 市指定文化財 84件	県指定文化財 5件 市登録文化財 39件	

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	1,410 千円	736 千円	1,934 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
文化財件数	122	123	123	市指定文化財及び市登録文化財の件数(累計)

●当該事業の評価

成果	文化財調査の結果、「山崎家文書」(古文書1件)を新たな市指定文化財に指定しました。また、指定・登録文化財の保存のため3件の文化財修理等に対し補助事業を実施し、県・市指定無形民俗文化財6団体に対し活動支援のため交付金を交付しました。その他、天然記念物の害虫防除、史跡保護のための伐採・剪定、文化財収蔵庫の害虫駆除を実施しました。
課題	会員の高齢化や新型コロナウイルス感染症等により、地域の伝統行事や民俗芸能を担う保存会等の活動が制限されている状況が続いており、無形民俗文化財の継承に影響が生じています。
方向性の	指定・登録文化財の維持管理に努めるとともに、文化財調査を継続的に実施し、指定・登録を進めます。また、文化財の保存と継承のため、文化財所有者や無形民俗文化財保持団体に対する支援を継続します。
対する評価に	文化財調査事業の成果として、6年ぶりに新たな市指定文化財が指定されました。また、補助事業の実施に際しては、一部事業に国の補助金を活用することにより、保持団体の負担を軽減できるよう取り組んでいます。

事業名	埋蔵文化財調査事業	74
-----	-----------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅸ 文化芸術の振興	担当	生涯学習課
施策	施策2 文化財の保護		

●事業の概要

主な目的・内容	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財を保護するため、範囲確認や記録保存の調査を実施します。埋蔵文化財包蔵地で土木工事等の計画がある場合、先立って保存すべき遺構・遺物の有無と、その範囲を確認するために試掘調査を実施する必要があり、保存すべき埋蔵文化財が確認された場合は、記録保存のために発掘調査を実施するとともに、調査報告書を刊行します。
主な対象(数)	上尾市の埋蔵文化財包蔵地(遺跡) 249カ所

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	2,093 千円	2,831 千円	3,115 千円

●当該事業の評価

成果	文化財保護法第93条第1項の規定に基づく届出を48件受理しました。このうち試掘調査30件、工事立会12件を実施しました。残りの5件は翌年度に繰越し、1件は調査済みの計画地であったため届出を受理しました。 また、平成10年代に公共施設建設に伴って発掘調査を実施した遺跡の出土遺物整理作業を実施しました。
課題	発掘調査が発生した際に対応できるように作業員を確保し調査体制を整備する必要や、試掘調査や整理作業を並行して実施できるような職員体制にする必要があります。 また、整理作業が終了した遺物の保管場所に限りがあるため、今後の保管について検討する必要があります。
方今後性の	埋蔵文化財調査は文化財保護法に基づいて埋蔵文化財を保護するため行うもので、文化財保護法により市町村教育委員会が実施するものとされており、引き続き法令に則って実施していきます。
対する評価に	文化財保護法及び関連例規に基づき、適正に手続きしています。 また、報告書刊行に向けて整理作業を実施しています。

事業名	文化財保護啓発事業	75
-----	-----------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅸ 文化芸術の振興	担当	生涯学習課
施策	施策2 文化財の保護		

●事業の概要

主な目的・内容	多くの世代へ上尾の歴史や文化を周知し、文化財保護意識を醸成するため、「あげお歴史セミナー」や「上尾の文化財展」等の啓発事業を実施します。また、市内の無形民俗文化財の映像記録を公開しているホームページ「あげお文化遺産ガイド」、SNSの管理を行います。
主な対象(数)	

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	866 千円	1,592 千円	805 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
啓発事業実施回数	8	16	10	上尾歴史セミナーや展示、出前講座等の実施回数

●当該事業の評価

成果	あげお歴史セミナーを3回、「上尾の摘田・畑作用具」をテーマにした展示を3回を開催しました。また、依頼に基づき、あげお市政出前講座等の文化財講座を10件を実施しました。その他、HP「あげお文化遺産ガイド」により、市内の無形民俗文化財の映像を広く公開しています。
課題	現在のところ上尾の歴史や文化を発信していく拠点がないため、多くの人が上尾の歴史や文化などの価値を認識し、保護していく意識が持てるような取り組みが必要です。
方今後性の	文化財を活用したセミナーや展示などの事業を継続的に実施することにより、歴史・文化への理解を深めるとともに文化財保護意識の高揚を図る啓発事業を進めていきます。 また、自然学習館展示室を一部リニューアルして、上尾の歴史文化を発信するきっかけとします。
目標・施策に 対する評価	新型コロナウイルス感染症の状況変化により、3年ぶりに年3回のあげお歴史セミナーを実施することができ、文化財の普及啓発につながる機会を提供することができました。また、講座の依頼件数も増加しており、普及啓発事業を積極的に実施することができました。

事業名	歴史資料調査事業	76
-----	----------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標Ⅸ 文化芸術の振興	担当	生涯学習課
施策	施策2 文化財の保護		

●事業の概要

主な目的・内容	市史編さん事業で収集した古文書や行政文書等の歴史資料について、保存及び活用を図るため、資料の分類・整理、目録の刊行等を行います。また、新たに収集した歴史資料についても、整備を行います。
主な対象(数)	

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	1,611 千円	1,197 千円	1,084 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
目録点数	20	21	-	刊行した歴史資料目録

●当該事業の評価

成果	市史編さん事業で収集を行った歴史資料について、保存や活用を図るため、資料の分類や整理を行い、文書目録の整備を行っています。 令和4年度は、「八枝神社文書目録」を整備するとともに、新たに寄贈を受けた歴史資料の整理を実施しました。また、歴史的価値のある公文書を収集した他、埼玉県地域史料保存活用連絡協議会による研修等に参加しました。
課題	歴史的事実の記録である古文書や歴史的公文書等は、市民共有の知的財産であることから、適切な保存や活用の方策を検討していく必要があります。
方向性の	市が所有する歴史資料の整理を引き続き実施するとともに、新たに受け入れた資料の調査も継続して行っていきます。また、整理が済み、保管を行っている歴史資料についても、文化財として適切な保存・管理を行っていきます。
目標・施策に対する評価	資料の分類や整理の成果として、文書目録を整備することにより、歴史資料の保存及び活用につなげています。

第三者評価者からの意見・提言

目標Ⅸ 文化芸術の振興

[施策1] 上尾市文化芸術祭、市民音楽祭など市内での多様な芸術活動支援の取組は評価できる。人口減少が本格化する中、文化芸術面で上尾市の魅力をアピールすることは重要である。課題としては、文化芸術の振興に関する情報発信や広報が不十分な点を指摘したい。市のHPやSNSなどの活用が限られており、市外や県外に対するPRも不十分である。また、文化団体連合会の会員の高齢化や会員数の減少などが進行している事態は憂慮すべきで、後進の会員育成への支援に取り組んでいただきたい。

[施策2] 文化財保護の取組は、受け継いできた文化財を次世代へと引き継ぎ、有効に活用することによって、地域文化を継承する役割を担っている。多くの市民に文化財に親しんでもらうための展示機会や展示方法のより一層の工夫が求められる。

若い世代が上尾市の地域文化を担い、上尾市の魅力をアピールしていくことを目指す施策を望みたい。

●重点事業 事業72【「上尾の摘田・畑作用具」保存活用事業】は、課題として挙げられている「文化財保管施設としては課題があり、将来的な保存のあり方も検討していく必要とあるが」、保管施設としては、今現在でも大いなる問題を内包しており、将来的な保存のあり方も検討する必要があるのではなく、将来的な保存のあり方こそ早急に検討すべき、重要かつ最優先課題であろう。しかるに、目標・施策に対する評価（自己評価）項目には、保存活用委員会で審議していますと記載されているが、国指定告示以降、3年も経過するため、何時迄に保存計画を策定するのか、タイムスケジュールが不明であり、単にその場しのぎの先送りを行っているようにしか、この点検評価書の記載内容からは、窺い知ることができない。●文化財保護指定制度のベンチマークは保存であり、その上で活用が存在するのが、文化財の基本的かつ唯一無二の取り扱いである。●第3期上尾市教育振興基本計画の指標に提示してある、「活動している無形文化財の保持団体数」を当該年度事業の評価指標として用いられるべきである。

美術展のお知らせの在り方、街角美術展の展開、関係者の高齢化課題、出品者数課題。今後、中、高校生の参加を促し上尾市が文化芸術面で充実した市になることを期待したい。市民音楽祭、合唱、邦楽、吹奏楽・器楽の一層の発展を期待する。

摘田・畑作用具の保存活用、上尾文化財の指定・保護はどうか検討したい。案内、広報はあるが、身近には見えにくい。市内に博物館が一つあるとよいのではないか。また、庚申塔の撤去や文化財の縮小廃棄も見られる。文化財の保護、保管について一考を要したい。私有地に文化財もあり費用、保護に課題がある。上尾の歴史や文化を発信していく拠点がないので検討したい。上尾の歴史資料について、どこを市民に発信するか。縄文・弥生遺跡、鎌倉・戦国時代、領家と荘園、鎌倉街道、北条氏と徳川氏、西尾氏の跡、陣屋、菅谷北城、荒川の舟運等全体を俯瞰できる施設、場が欲しい。上尾の歴史、建物、地理地形等ジオラマは参考になる。

事業名	屋外スポーツ施設管理運営事業	77
-----	----------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標X 健康で活力に満ちたスポーツ活動の推進	担当	スポーツ振興課
施策	施策1 誰もがスポーツを楽しめる環境の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	平方スポーツ広場、平方野球場等の屋外スポーツ施設の全般的な整備や管理運営を行い、安心・安全に利用できる環境整備を図ります。また、多様な市民ニーズに対応するとともに、生涯にわたりスポーツに親しめるよう、効率的な管理運営など、スポーツを継続的に行うための環境づくりを図っていきます。
主な対象(数)	平方スポーツ広場、平方野球場、平塚ゲートボール場

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	119,413 千円	23,809 千円	18,496 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
屋外スポーツ施設の利用者数	129,610人	121,962人	175,000人	平方スポーツ広場、平方野球場を利用した人の数(単年度)

●当該事業の評価

成果	屋外スポーツ施設における各施設のグラウンド整備や除草等を行い、良好な環境で利用できるよう管理運営を行いました。また、修繕や備品等の交換、補填などを行い、安心・安全に利用できるよう環境整備を図りました。
課題	各施設整備において、経年劣化の進行が見受けられることから、計画的な改修整備を行う必要があります。現状は、無人管理となっていることから、より安全な管理体制の検討が必要となっています。
方向性の	多様な市民ニーズに対応するとともに、市民の誰もがスポーツ親しみやすく、安全・安心に利用できるよう必要な修繕、整備と効率的な管理運営に向けた環境整備を図っていきます。
目標・施策に 対する評価	市民の身近なスポーツ活動の場として、グラウンド整備や除草作業等の環境整備と必要な修繕等による維持管理を図り利便性の向上を図ることができました。

事業名	市民体育館管理運営事業	78
-----	-------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標X 健康で活かに満ちたスポーツ活動の推進	担当	スポーツ振興課
施策	施策1 誰もがスポーツを楽しめる環境の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	多様化する市民ニーズに効果的に対応するため、指定管理制度による管理運営を継続し、施設の安全管理と利用者へのサービス向上を図っていきます。
主な対象(数)	スポーツ・レクリエーション利用者

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	65,675 千円	80,041 千円	60,000 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
市民体育館利用者数	220,996人	262,196人	265,000人	市民体育館を利用する人の数(単年度)

●当該事業の評価

成果	新型コロナウイルス感染症対策による利用制限などの対策を講じながら、管理運営を行いました。状況に応じた対応により、利用者数の増加を図ることができました。
課題	施設の老朽化による修繕費用や光熱水費等の増加による管理運営費への圧迫が懸念されているなか、安定した管理運営が望まれます。
方向性の今後の	指定管理者制度を継続し、民間事業者の運営による活力を活かし、市民のスポーツ活動、健康づくりをサポートする拠点施設として安全管理と利用者へのサービス向上を図ります。
対する評価の目標・施策に	指定管理者制度による管理運営により、コロナ感染症の影響も残る中、利用者へのサービス向上と利用の促進が一定程度図ることができました。

事業名	学校施設開放(スポーツ振興)事業	79
-----	------------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標X 健康で活力に満ちたスポーツ活動の推進	担当	スポーツ振興課
施策	施策1 誰もがスポーツを楽しめる環境の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	市内在住、在勤、在学者に対し、身近な施設である学校施設(校庭・体育館等)を開放することにより、スポーツ・レクリエーションの振興を図ります。学校施設開放の利用の適正化や、使用しやすい社会体育施設となるよう老朽化した施設の修繕及び備品の交換・補充などを行い、老朽化した社会体育トイレの洋式化を含む改修工事を進めています。また、学校施設開放運営委員会へ交付金を配分しています。
主な対象(数)	市内在住・在勤・在学の学校施設開放(校庭・体育館)利用団体及び利用者(小学校22校・中学校11校)

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	3,460 千円	22,496 千円	20,707 千円

●評価指標

指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	指標の説明
学校施設開放の利用団体数	417団体	422団体	430団体	学校開放利用団体名簿
学校施設開放の利用者数	242,641人	276,856人	280,000人	学校開放月例利用報告書

●当該事業の評価

成果	新型コロナウイルス感染症の影響はある中、感染対策を講じながら、施設開放事業を行いました。令和3年度を上回る利用者となり、市民のスポーツ活動の推進を図ることができました。また、校庭の防球ネットの増設工事や施設修繕、計画的に進める社会体育トイレの洋式により、広い年代の利用者への利便性の向上を図ることができました。
課題	多くの市民に利用いただいている一方で、学校周辺の住民からは、校庭の防球対策、利用者が発生する騒音等に関する苦情が寄せられています。市民の身近なスポーツ活動の場として近隣住民の理解、住宅環境との共存などが課題となっています。
方今後の向性の	市民が安全・安心にスポーツに親しむことができる場として、学校開放施設の有効利用を推進し、老朽化した社会体育トイレや防球対策などの施設の計画的な安全対策を進め、利用環境の充実を図ってまいります。
目標・施策に対する評価に	誰もがスポーツに親しめる環境の充実に向け、学校の社会体育施設の修繕、改修工事を計画的に進めることができました。また、身近なスポーツ活動の拠点として多くの市民に利用いただいています。

事業名	スポーツ大会・教室等開催事業	80
-----	----------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標X 健康で活かに満ちたスポーツ活動の推進	担当	スポーツ振興課
施策	施策2 誰もがスポーツを楽しめる機会の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	市民への生涯スポーツ・レクリエーション普及、振興を図るため、各種スポーツ大会及び教室等の事業メニューを提供し、市民がスポーツ活動とスポーツを通じた健康づくり、体力増進への取り組みを推進することを目的としています。
主な対象(数)	各スポーツ大会、教室等の参加者

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	35,195 千円	41,459 千円	36,290 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
スポーツ・レクリエーション事業参加者数	203人	15,064人	19,100人	各種スポーツ大会・教室に参加した人数

●当該事業の評価

成果	新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツイベントの開催が困難な状況が続いていた中、シティーハーフマラソンなどの大規模イベントを感染対策を講じて3年ぶりに開催することができました。小規模なスポーツ教室や講座については、前年を上回る参加を得て、市民にスポーツに親しむ機会の提供を行うことができました。
課題	多様化する市民ニーズへの対応が求められており、時代に合わせたスポーツ機会の提供が必要となっています。ライフステージに対応し、身体の状態や競技レベルに合わせ、スポーツに親しめる環境の充実に向けた施策が必要となっています。また、スポーツボランティアの有効活用についても検討が必要です。
方今後の向性の	誰もがスポーツを楽しめる機会の充実を図るため、多様なニーズに即した各種スポーツ大会や教室等を開催してまいります。
目標・施策に対する評価に	新型コロナウイルス感染症の影響が残る中ではありましたが、感染対策を講じて各種スポーツ大会・スポーツ教室等を開催し、市民のスポーツ活動の推進とスポーツを通じた健康づくりと運動の習慣化を図ることができました。

事業名	スポーツ交流事業	81
-----	----------	----

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標X 健康で活かに満ちたスポーツ活動の推進	担当	スポーツ振興課
施策	施策2 誰もがスポーツを楽しめる機会の充実		

●事業の概要

主な目的・内容	市民への生涯スポーツ・レクリエーションの普及、振興を図るため、他市とのスポーツ交流を通してスポーツ機会の提供を推進し、相互の競技力の向上、健康増進を図っていきます。
主な対象(数)	スポーツ交流に参加する人

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	0 千円	329 千円	851 千円

●評価指標

指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	指標の説明
スポーツ交流事業の参加者数	—	44人	64人	市民駅伝競走大会に参加した人の数

●当該事業の評価

成果	駅伝競走大会を通じ、福島県本宮市とのスポーツ交流を図り、相互の競技力向上とスポーツを通じた地域交流を深めることができました。
課題	スポーツ交流を広げていくにあたり、新たな交流団体や効果的な相互間の交流となるよう検討が必要となります。
方 向 後 性 の	幅広い年代の人たちに対し、スポーツ交流の機会を提供し、交流を通じた相互間の競技力強化や地域交流を通じた活性化に向けた事業を行なってまいります。
目 標 ・ 施 策 に 対 する 評 価	他市等とのスポーツ交流を通じて、相互のスポーツ振興と健康の保持増進を図ることができました。

事業名	スポーツ活動推進事業	82
-----	------------	----

★ 重点事業

●上尾市教育振興基本計画の体系

目標	目標X 健康で活かに満ちたスポーツ活動の推進	担当	スポーツ振興課
施策	施策3 地域におけるスポーツ活動の活性化の推進		

●事業の概要

主な目的・内容	地域スポーツの推進を担うスポーツ推進委員等の研修や講習会を実施し、市民への生涯スポーツ・レクリエーションの普及、振興を目的としたスポーツ推進委員連絡協議会の活動を支援し、スポーツ活動の推進を図ります。
主な対象(数)	スポーツ推進委員自主事業(スポーツ推進委員数50人、定員50人)

●事業費の推移

年度	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 当初予算
金額(千円未満切捨)	2,156 千円	3,786 千円	6,072 千円

●評価指標

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法により委嘱されるものであり、市民のスポーツ・レクリエーションの普及、振興に重要な役割があることから、活動支援や委員の更なる資質向上に向けた研修会参加などへの支援を図っていきます。

●当該事業の評価

成果	スポーツ推進委員連絡協議会では、コロナ感染対策を講じながら、令和3年度から開始した、高齢者を対象とした健康増進事業「スポレク広場」を拡大して開催し、市民のスポーツを通じた健康づくりの推進を図りました。また、ユニバーサルスポーツの普及、推進を図るため、研修会を実施し委員相互の資質向上を図りました。
課題	スポーツ推進委員は、任期の2年毎にスポーツ協会の加盟団体から推薦を受け、委嘱をしていますが、加盟団体において若年層の新たな担い手がおらず、スポーツ推進委員の高齢化が進んでいることや、経験の浅い委員の育成を図っていくことが課題となっています。
方向性の	市民のスポーツ・レクリエーション活動が安全で楽しく行われるためには、地域スポーツリーダーとなり得る者が不可欠であり、スポーツ推進委員の育成と資質向上に向けた施策が重要となります。地域スポーツの推進に向け、女性や若年層から中年層の人が力を発揮しやすい環境づくりを図っていきます。
対する評価に	地域スポーツを支えるスポーツ推進委員の更なる資質向上を図るために、国や県の研修への参加や自主研修など実施に関する支援を行いました。また、引き続き、若い世代の人を取り込むため、スポーツ推進委員の公募を継続的に実施しました。

第三者評価者からの意見・提言

目標X 健康で活力に満ちたスポーツ活動の推進

〔施策1〕施設の老朽化は、利用者の安全性にも影響するので、適切な改修・修繕を進めていただきたい。学校開放施設の有効利用推進も重要な取組であり、利用環境の一層の充実を期待したい。

〔施策2〕〔施策3〕上尾シティハーフマラソンなどのスポーツ大会が3年ぶりに開催されたことは喜ばしい。年齢や体力にあったスポーツに親しみ、健康を維持・増進することは、社会参加の促進、地域社会の活性化の視点からも意義が大きい。また、予防医学の観点からも望ましい。そうした地域スポーツを支えるスポーツ推進委員の公募による継続的確保、育成・資質向上をお願いしたい。

高齢者を対象とする健康増進事業「スポレク広場」の拡大開催を評価したい。運動が老化を遅らせることは近年の抗老化研究によって立証されている。今後、健康寿命を延ばす視点からこうした取組をますます充実・発展させていただきたい。

●第3期上尾市教育振興基本計画に掲げてある目標Xの3つの指標は、当該年度実施事業の何処の評価指標にあるか不明。いずれかの事業になれば、経年変化の把握ができないばかりでなく、事業評価制度そのものを否定するものである。●重点事業 事業78【市民体育館管理運営事業】は、指定管理者制度による運営である。民間事業者の活用によるサービス向上の方向性を活用し、その上で、事業主体者側は、全ての業務が市条例規則等、法令に依拠しているかどうか、その実態を恒常的かつ具体的に把握し、常に市民に提示できる事務事業の遂行が必要不可欠。●重点事業 事業82【スポーツ活動推進事業】の評価指標について、数値を用いた定量的指標が望ましいが、定性的な指標を用いる場合は、論理的でエビデンスの高い自己評価が可能なものが望ましい。情緒的かつ感覚的な評価指標及び自己評価は、事業評価の実施になじまない。

無人管理広場の安全管理体制を確立し地域開放できないものか。

市民体育館は、スポーツ活動、健康づくり拠点として更に期待したい。学校開放施設の有効活用と近隣住民との共存は大切。シティハーフマラソンや各種スポーツ大会の充実はよい。上尾の誇りである。高齢者参加可能なイベント、駅からハイキングや地区ウォーキング等との連携も有効である。青少年育成会の各地区の歴史探索との連携も効果的である。

アッピー体操は、健康維持増進に有効であるが、一時休止した。事業の充実とリーダー養成が必要。希望者が、無理なく全員参加できる体制にして欲しい。

今後、学校、公民館、集会所、公園、空き地等場所を確保したラジオ体操、太極拳、ウォーキング等推進したい。そのためのリーダーを要請したい。健康のため路上散歩する人は大勢いる。上尾市は、健康管理意識が高くスポーツ都市、長寿の町として充実を図りたい。

教育委員会委員の活動状況

教育委員会 会議

(1) 令和4年度 教育委員会会議の開催状況

定例会・臨時会	開催日時		場 所	出席 委員数
令和4年 第2回臨時会	令和4年4月1日(金)	11:30~11:37	上尾市役所 教育委員室	6人
令和4年 4月定例会	令和4年4月20日(水)	9:30~10:32	上尾市役所 教育委員室	6人
令和4年 5月定例会	令和4年5月25日(水)	9:30~11:14	上尾市役所 大会議室	6人
令和4年 6月定例会	令和4年6月24日(金)	9:30~10:07	上尾市役所 教育委員室	6人
令和4年 第3回臨時会	令和4年7月4日(月)	13:15~13:36	上尾市役所 教育委員室	5人
令和4年 7月定例会	令和4年7月20日(水)	9:00~9:53	上尾市役所 教育委員室	6人
令和4年 8月定例会	令和4年8月19日(金)	13:30~14:37	上尾市役所 大会議室	6人
令和4年 9月定例会	令和4年9月29日(木)	9:00~10:55	上尾市役所 大会議室	6人
令和4年 10月定例会	令和4年10月19日(水)	9:30~10:29	上尾市役所 教育委員室	6人
令和4年 11月定例会	令和4年11月22日(火)	9:00~10:20	上尾市役所 教育委員室	6人
令和4年 12月定例会	令和4年12月22日(木)	9:30~11:34	上尾市役所 教育委員室	6人
令和5年 1月定例会	令和5年1月25日(水)	9:00~10:04	上尾市役所 教育委員室	6人
令和5年 第1回臨時会	令和5年2月9日(木)	18:00~18:45	上尾市役所 教育委員室	6人
令和5年 2月定例会	令和5年2月21日(火)	9:30~12:05	上尾市役所 教育委員室	6人
令和5年 3月定例会	令和5年3月23日(木)	13:30~15:40	上尾市役所 教育委員室	6人

(2) 令和4年度 教育委員会議決案件

議案番号	議案名	採決結果	議決番号	議決年月日
議案第18号	上尾市スポーツ推進審議会委員の任命について	全員一致 原案可決	議決第18号	令和4年 4月20日
議案第19号	上尾市学校運営協議会委員の任命について	全員一致 原案可決	議決第19号	
議案第20号	上尾の摘田・畑作用具保存活用検討委員会委員の委嘱について	全員一致 原案可決	議決第20号	
議案第21号	上尾市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第21号	令和4年 5月25日
議案第22号	上尾市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例の一部を改正する条例の制定に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第22号	
議案第23号	上尾市公民館運営審議会委員の委嘱又は任命について	全員一致 原案可決	議決第23号	
議案第24号	上尾市人権教育推進協議会委員の委嘱又は任命について	全員一致 原案可決	議決第24号	
議案第25号	上尾市民体育館及び上尾市平塚サッカー場指定管理者候補者選定委員会委員の委嘱又は任命について	全員一致 原案可決	議決第25号	
議案第26号	上尾市学校運営協議会委員の任命について	全員一致 原案可決	議決第26号	
議案第27号	上尾市幼児教育推進協議会委員の任命について	全員一致 原案可決	議決第27号	
議案第28号	上尾市立中学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱又は任命について	全員一致 原案可決	議決第28号	
議案第29号	上尾市民体育館管理規則の一部を改正する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第29号	
議案第30号	上尾市平塚サッカー場管理規則の一部を改正する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第30号	
議案第31号	令和4年度上尾市一般会計補正予算に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第31号	
議案第32号	上尾市社会教育委員の委嘱又は任命について	全員一致 原案可決	議決第32号	令和4年 6月24日
議案第33号	上尾市立人権教育集会所運営委員会委員の委嘱又は任命について	全員一致 原案可決	議決第33号	
議案第34号	上尾市就学支援委員会委員の委嘱又は任命について	全員一致 原案可決	議決第34号	
議案第35号	上尾市不登校対策推進委員会委員の委嘱又は任命について	全員一致 原案可決	議決第35号	

議案番号	議案名	採決結果	議決番号	議決年月日
議案第36号	裁判上の和解をすることに係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第 36号	令和4年 7月4日
議案第37号	令和4年度上尾市一般会計補正予算に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第 37号	
議案第38号	県費負担教職員の任免その他の進退に係る内申について	全員一致 原案可決	議決第 38号	
議案第39号	上尾市立小・中学校通学区審議会委員の委嘱について	全員一致 原案可決	議決第 39号	令和4年 7月20日
議案第40号	上尾市立小・中学校における働き方改革基本方針の改定について	全員一致 原案可決	議決第 40号	令和4年 8月19日
議案第41号	令和3年度上尾市一般会計歳入歳出決算の認定に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第 41号	
議案第42号	令和4年度上尾市一般会計補正予算に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第 42号	
議案第43号	上尾市教育委員会公印規則等の一部を改正する等の規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第 43号	令和4年 9月29日
議案第44号	上尾市教育委員会事務局及び市立教育機関の職員の服務に関する規程等の一部を改正する訓令の制定について	全員一致 原案可決	議決第 44号	
議案第45号	令和5年度当初教職員人事異動方針について	全員一致 原案可決	議決第 45号	
議案第46号	上尾市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第 46号	令和4年 10月19日
議案第47号	上尾市スポーツ推進審議会委員の委嘱又は任命について	全員一致 原案可決	議決第 47号	
議案第48号	令和5年度当初給食調理員人事異動方針について	全員一致 原案可決	議決第 48号	令和4年 11月22日
議案第49号	令和4年度教育に関する事務の管理及び執行の状況について	全員一致 原案可決	議決第 49号	
議案第50号	令和4年度上尾市一般会計補正予算に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第 50号	
議案第51号	公の施設の指定管理者の指定に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第 51号	
議案第1号	令和4年度上尾市一般会計補正予算に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第 1号	令和5年 2月9日
議案第2号	令和5年度上尾市一般会計予算に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第 2号	
議案第3号	上尾市立中学校部活動地域移行推進協議会条例の制定に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第 3号	
議案第4号	上尾市学校給食運営委員会条例の制定に係る意見の申出について	全員一致 原案可決	議決第 4号	

議案番号	議案名	採決結果	議決番号	議決年月日
議案第5号	上尾市立小・中学校管理規則及び上尾市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第5号	令和5年 2月21日
議案第6号	上尾市立人権教育集会所運営委員会規則の一部を改正する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第6号	
議案第7号	上尾市立学校教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の一部を改正する規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第7号	
議案第8号	上尾市教育委員会事務局及び教育機関の職員の勤務時間、休憩時間等に関する規程の一部を改正する訓令の制定について	全員一致 原案可決	議決第8号	
議案第9号	令和5年度当初教職員人事異動に係る内申について	全員一致 原案可決	議決第9号	
議案第10号	上尾市学校給食実施規則の制定について	全員一致 原案可決	議決第10号	令和5年 3月23日
議案第11号	上尾市教育委員会の権限に属する事務の決裁に関する規程の一部を改正する訓令の制定について	全員一致 原案可決	議決第11号	
議案第12号	上尾市学校運営協議会委員の任命について	全員一致 原案可決	議決第12号	
議案第13号	上尾市指定文化財の指定について	全員一致 原案可決	議決第13号	
議案第14号	令和5年度上尾市教育行政重点施策の策定について	全員一致 原案可決	議決第14号	
議案第15号	上尾市学校施設更新計画基本計画の改定について	全員一致 原案可決	議決第15号	
議案第16号	上尾市小中一貫教育基本方針の策定について	全員一致 原案可決	議決第16号	
議案第17号	上尾市不登校対策基本方針の策定について	全員一致 原案可決	議決第17号	
議案第18号	上尾市学校給食基本方針の策定について	全員一致 原案可決	議決第18号	
議案第19号	教育委員会事務局及び市立教育機関の職員に係る令和5年度当初人事異動について	全員一致 原案可決	議決第19号	

令和4年度教育委員会委員の主な活動

月 日	件 名	場 所
令和4年4月1日	教育委員会令和4年第2回臨時会	上尾市役所
4月22日	教育委員会4月定例会	上尾市役所
5月17日	令和4年度埼玉県市町村教育委員会連合会総会	本庄市
5月25日	教育委員会5月定例会	上尾市役所
6月24日	教育委員会6月定例会	上尾市役所
7月4日	教育委員会令和4年第3回臨時会	上尾市役所
7月11日	令和4年度埼玉県市町村教育委員会教育委員研究協議会	さいたま市
7月12日、13日	小中一貫教育実施に関する視察	戸田市、坂戸市、春日部市
7月20日	教育委員会7月定例会	上尾市役所
7月22日	上尾市中学校吹奏楽演奏会	上尾市文化センター
7月28日	令和4年度市町村教育長・教育委員研究協議会	オンライン
8月19日	教育委員会8月定例会	上尾市役所
8月27日	健康スポーツ体験会	上尾市民体育館
9月29日	教育委員会9月定例会	上尾市役所
10月9日	上尾市民体育祭	上尾運動公園
10月11日	小中一貫教育実施に関する視察	飯能市
10月19日	教育委員会10月定例会	上尾市役所
10月28日	平方小学校、原市小学校委嘱研究発表	平方小学校、原市小学校
10月31日	大石北小学校、上尾中学校委嘱研究発表	大石北小学校、上尾中学校
11月8日	原市中学校委嘱研究発表	原市中学校
11月9日	上尾市小・中学校音楽会	上尾市文化センター
11月10日、11月11日	市町村教育委員会研究協議会	群馬県前橋市
11月12日	基調講演会「新しい時代の学びにふさわしい学校を考える集い」	上尾市文化センター
11月20日	上尾シティハーフマラソン大会	上尾運動公園
11月22日	教育委員会11月定例会／総合教育会議	上尾市役所
11月24日	平方北小学校、西中学校委嘱研究発表	平方北小学校、西中学校
11月29日	上平小学校、大石南中学校委嘱研究発表	上平小学校、大石南中学校
12月22日	教育委員会12月定例会	上尾市役所
令和5年1月8日	上尾市二十歳のつどい	上尾市文化センター
1月25日	教育委員会1月定例会／総合教育会議	上尾市役所
	今泉小学校、西小学校委嘱研究発表	オンライン
2月9日	教育委員会令和5年第1回臨時会	上尾市役所
2月12日	上尾市民駅伝競走大会	上尾運動公園

月 日	件 名	場 所
2月21日	教育委員会2月定例会	上尾市役所
3月15日	中学校卒業証書授与式	各中学校
3月23日	小学校卒業証書授与式	各小学校
	教育委員会3月定例会	上尾市役所